

はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めています。その取組の一つとして、この税を活用して、平成28年4月から、森林教育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、指導者の育成や紹介、出前授業の実施、活動事例集の発行、森林教育のコーディネートなどを通じた森林環境教育・木育に取り組んできました。

こうした中、持続可能な発展にむけた社会づくりをより一層求める声の高まりや、教育現場では、学習指導要領が改正され、「生きる力」を育む主体的・対話的な深い学びを重視した教育手法が推進されるなど、森林や社会を巡る情勢は大きく変化しています。

このような変化に対応するため、令和2年10月には、県がこれまで推進してきた森林環境教育・木育を、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、「みえ森林教育ビジョン」を策定し、森林教育の基本的な考え方や目標とする社会、人物像及び進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、教育関係者、保育関係者等と共有しながら、これらの取組を一体的に進めています。

しかし、「みえ森林教育ビジョン」実現のためには、三重県に暮らす私たち一人ひとりが、年代に応じた学びや気づきを積み重ねることが重要であることから、年代に応じた森林教育のテーマや課題、その森林教育を通じて、将来的にどのような行動へと導くのかを示した「みえ森林教育プログラム」を作成することとしました。

この「みえ森林教育プログラム」の作成にあたっては、林業や森林教育の人材育成に関わる関係者からなるワーキンググループにおいて、令和5年度から令和6年度に7回のワーキング活動を通して検討を重ねてきました。また、京都教育大学 山下宏文 名誉教授や三重大学教育学部 平山大輔 教授からご助言をいただきながら、県内の小中学校の教員や、森のせんせいなど森林教育に携わる指導者の方々のご意見を参考にさせていただきました。

ここでは、この「みえ森林教育プログラム」の考え方を示すとともに、学校関係者や森林教育指導者など、森林教育を企画・運営しようとする方々の参考となるよう、県内で行われた森林教育プログラムの事例を掲載しています。また、それぞれの事例には「みえ森林教育ビジョン」や「みえ森林教育プログラム」との関連付けのほか、学校教育での活用が進むよう、学習指導要領における位置づけを記載しています。

また、取組事例の内容は、毎年更新していきますので、これらの事例を参考に、より多くの場面で森林教育が展開されることを期待します。

もくじ

第1章 「みえ森林教育プログラム」の基本的な考え方

- 1 「みえ森林教育ビジョン」とは・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1
- 2 みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力） P.2
- 3 子どもから大人までの森林教育・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5
- 4 学校教育の中で実施される森林教育への期待・・・・・・・・ P.6
- 5 森林教育プログラムの進め方・・・・・・・・・・・・・・・・ P.7

第2章 めざす姿に応じた森林教育プログラム～取組事例～ P.9

巻末資料

- 1 学習指導要領における学習内容と掲載事例一覧・・・・・・・・ P.82
- 2 取組事例の活用（解説）・・・・・・・・・・・・・・・・ P.85
- 3 用語の定義・・・・・・・・・・・・・・・・ P.86
- 4 みえ森づくりサポートセンターの活用・・・・・・・・ P.87
- 5 みえ森と緑の県民税の活用・・・・・・・・ P.88

第1章 「みえ森林教育プログラム」の基本的な考え方

1 「みえ森林教育ビジョン」とは

県では、令和2年3月から8月に「森林環境教育・木育のあり方検討会」を開催し、県がそれまで、森林や木、木材に親しみ、森林・林業への理解と関心を深めていくために推進してきた森林環境教育・木育について、有識者等から専門的及び幅広い意見をいただき、今後、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、令和2年10月に「みえ森林教育ビジョン」を策定しました。

同ビジョンでは、森林教育の基本的な考え方や目標とする社会や人物像、その進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、教育関係者、保育関係者等と共有しながら、森林教育を一体的に進めているところです。「みえ森林教育ビジョン」の全文は右の二次元コードから三重県のホームページでご覧になれます。



みえ森林教育ビジョン（概要版）



- ・森林と社会を巡る情勢の変化に対応した森林環境教育・木育を推進するため、ビジョンを策定
- ・みえ森林教育の基本的考え方、目標とする社会と人物像、取組の進め方を規定

ビジョン策定の動機（森林・社会を巡る情勢変化）

- 森林と社会の持続可能性を追求する上で、森林と私たちの関係を見つめ直すことが不可欠
- 充実する森林を木材のみならず、さまざまな産業を展開する空間として活用し、森林を整備・更新することが必要

みえ森林教育の基本的考え方（今後の森林教育の果たす役割）

- 森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育
- 森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育
- 自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

取組の進め方

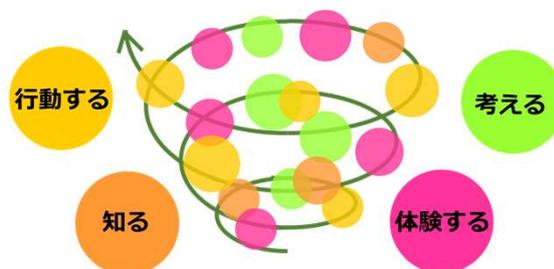
森林教育の裾野の拡大	子どもから大人まで一貫した教育体系の構築	主体的・対話的で深い学びの充実	指導者の養成
<ul style="list-style-type: none">➤ 森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大➤ 保育や教育への森林教育の更なる普及➤ 大人や企業を対象とした森林教育の拡充	<ul style="list-style-type: none">➤ みえ森林・林業アカデミーにおける森林教育と林業人材育成の統一的視点の下での推進➤ 林業・木材産業に従事する方との連携強化	<ul style="list-style-type: none">➤ 主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の普及➤ 森林をフィールドとした体験活動の機会の拡大	<ul style="list-style-type: none">➤ ビジョンの指導者への共有➤ 指導者養成講座の体系化

【目標とする社会】

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会

【目標とする人物像】

森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人



2 みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）

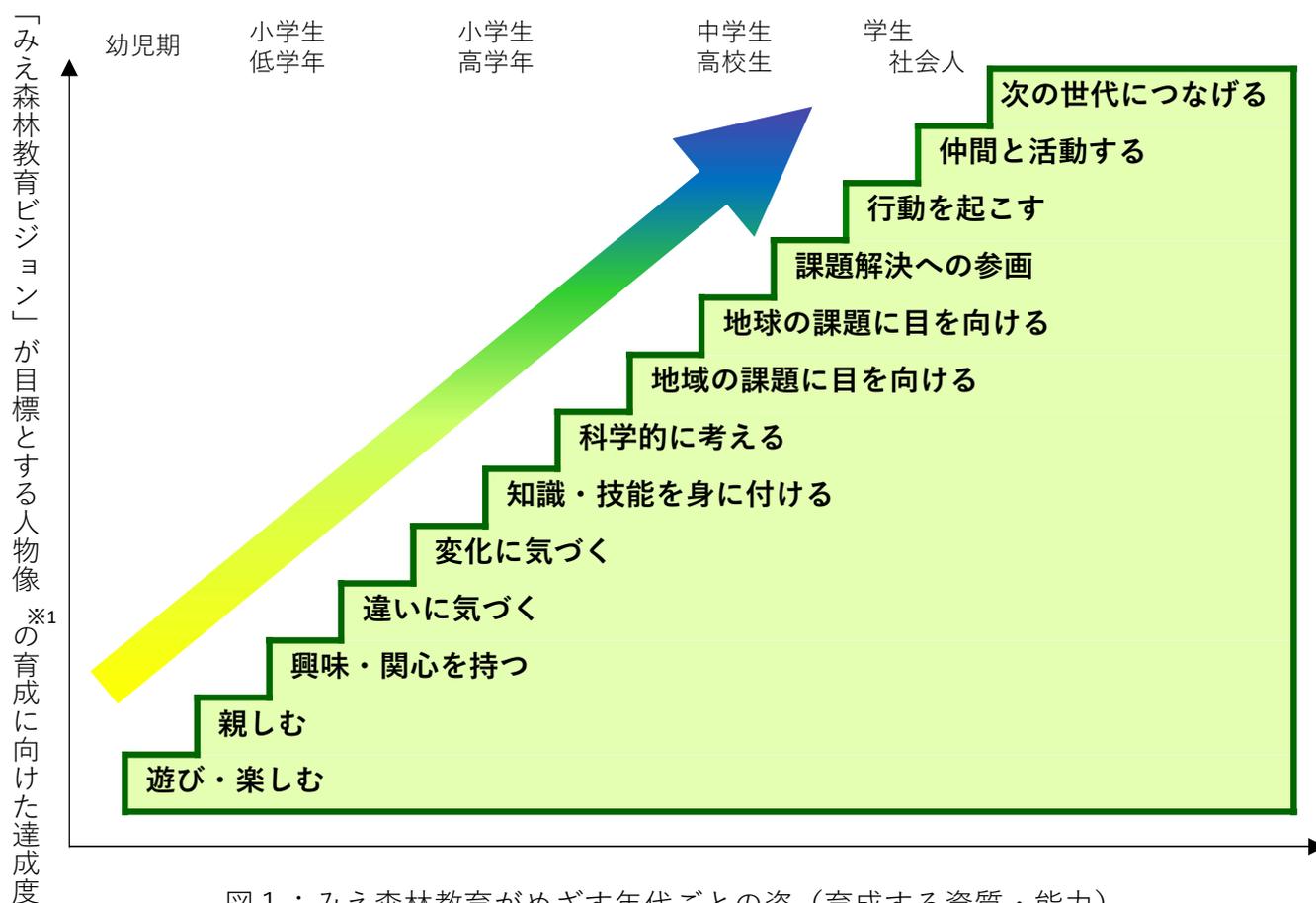


図1：みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）

※1 みえ森林教育ビジョンが目標とする人物像：森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人

「みえ森林教育ビジョン」がめざす「森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）」を育てるため、次のとおりみえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）を定めました。

なお、本プログラムでは、これらのステップを積み重ねていく森林教育を通して、自ら学び・考え・行動に起こしたことを、自らの言葉で表現し、次の世代につなげていくことで、「みえ森林教育ビジョン」の目標とする社会（森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会）の実現を目指します。

年 代	みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）
幼児期	遊びを通して森林や木、木材を楽しみ、次第に親しみを感じ、興味・関心を示そうとする意識を養う。
小学生低学年	森林や木、木材に対する興味や関心を持って、身近な自然物を比較し、その違いや、季節による森の変化、樹木をはじめとする生物が成長していることに気づく。
小学生高学年	森林や木、木材に関する知識・技能に基づき、科学的に考えようとする意識を養い、森林や林業に関する地域や地球規模の課題について考える。
中学生・高校生 (青年前期・中期)	森林・林業の課題解決に向けた探究を通して、これらの課題と実生活を関連付け、課題解決に向けて検討し、参画しようとする意識を養う。
学生・社会人 (青年後期以降)	社会活動として森林・林業の課題解決に向けた行動※2へ参画しようとする意識の醸成や、日常生活の中で課題解決につながる取組を継続的に行う力を身につけ、さらに、仲間と一緒に取り組み、活動の輪を広げる。

※2 「森林・林業の課題解決に向けた行動」とは、森づくり活動や森林保全につながる地域材利用などを示しています。

みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）の具体的な内容は次の通りです。

みえ森林教育がめざす年代ごとの姿の概要

01 遊び・楽しむ

- ・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

02 親しむ

- ・身近な動植物への接し方について考える
- ・身近な動植物に親しみや優しさを持って接する
- ・身近な動植物を命あるものとしていたわり、大切にすること
- ・命の尊さに気づく
- ・普段とは違う生活環境で、自然や文化に親しむ

03 興味・関心を持つ

- ・自然や動植物にふれて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもって関心を高める
- ・自然とのふれあいの中で様々な事象に興味・関心をもつ
- ・自然などの身近な動植物に関心をもち、取り入れて遊ぶ

04 違いに気づく

- ・自然物の色や形の特徴を生かして、ものづくりにいかす
- ・身の回りの生物について、観察したり飼育する中で、環境や体のつくりを比較する
- ・生物には、色や形、大きさなどに違いがあることを知る

05 変化に気づく

- ・身近な自然の観察を通して、自然の様子や四季の変化に気づく
- ・動物を飼ったり、植物を育てる活動を通して、成長の様子や変化に関心をもってはたらきかける
- ・植物の育ちには一定の順序があることに気づく

06 知識・技能を身に付ける

- ・森林の次のはたらきについて、人々のくらしや経済活動と関連付けて、知識として身に付ける
 - ① 快適な環境をつくる
 - ② 二酸化炭素をたくわえる
 - ③ きれいな空気をつくる
 - ④ 木材を生み出す
 - ⑤ 水をたくわえる
 - ⑥ 風や砂を防ぐ
 - ⑦ 川や海を豊かにする
 - ⑧ 動植物のすみかとなる
 - ⑨ 土を支える
- ・林業や木材加工に使用する道具の使い方や、基本的な林業の施業技術及び木材加工技術を身に付ける

07 科学的に考える

- 実験や観察、調べ学習の結果と関連付けて森林・林業・木材についての理解を深める
- 実験や観察、調べ学習の結果を分析し、その特徴や規則性を見いだす
- 観察に基づき共通点や相違点を見いだし、動植物が分類できることを見いだす

08 地域の課題に目を向ける

- 森林・林業における地域の課題があることを知る
- 地域の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- 課題解決のための社会的な動向を知る

09 地球の課題に目を向ける

- 森林・林業における地球規模の課題があることを知る
- 地球規模の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- 課題解決のための社会的な動向を知る

10 課題解決への参画

- 地域や地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて検討する
- 課題解決に向けた行動やはたらきかけについて考え、仲間と議論する
- 課題解決策について整理し、仲間と共有する

11 行動を起こす

- 課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- 社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

12 仲間と活動する

- 関係者間でよりよい信頼関係を築き、助け合いの下、継続的に活動する

13 次の世代につなげる

- 森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会づくりに向けて、次の世代へ働きかけを行う
- 森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりに取組む

3 子どもから大人までの森林教育

前項で示した「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿」への学びを積み重ねていくためには、県をはじめ、市町や三重県の森林・林業・木材産業に関わる方々、三重県で活躍する企業、そこに暮らす私たちが連携して、子どもから大人まで絶え間ない森林教育の取組を行っていく必要があります。

みえ森林教育がめざす年代ごとの姿と様々な主体による森林教育の取組との関係を図2に示しました。これらの取組を関連付けて、子どもから大人まで継続的な取組とすることで、「体験し、知り、考え、行動する」といったプロセスを繰り返しながら、「年代ごとにめざす姿（育成する資質・能力）」に応じた学びを積みあげ、「みえ森林教育ビジョン」の目標とする人物像（森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人）を育成し、目標とする社会（森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会）を実現することを目指します。

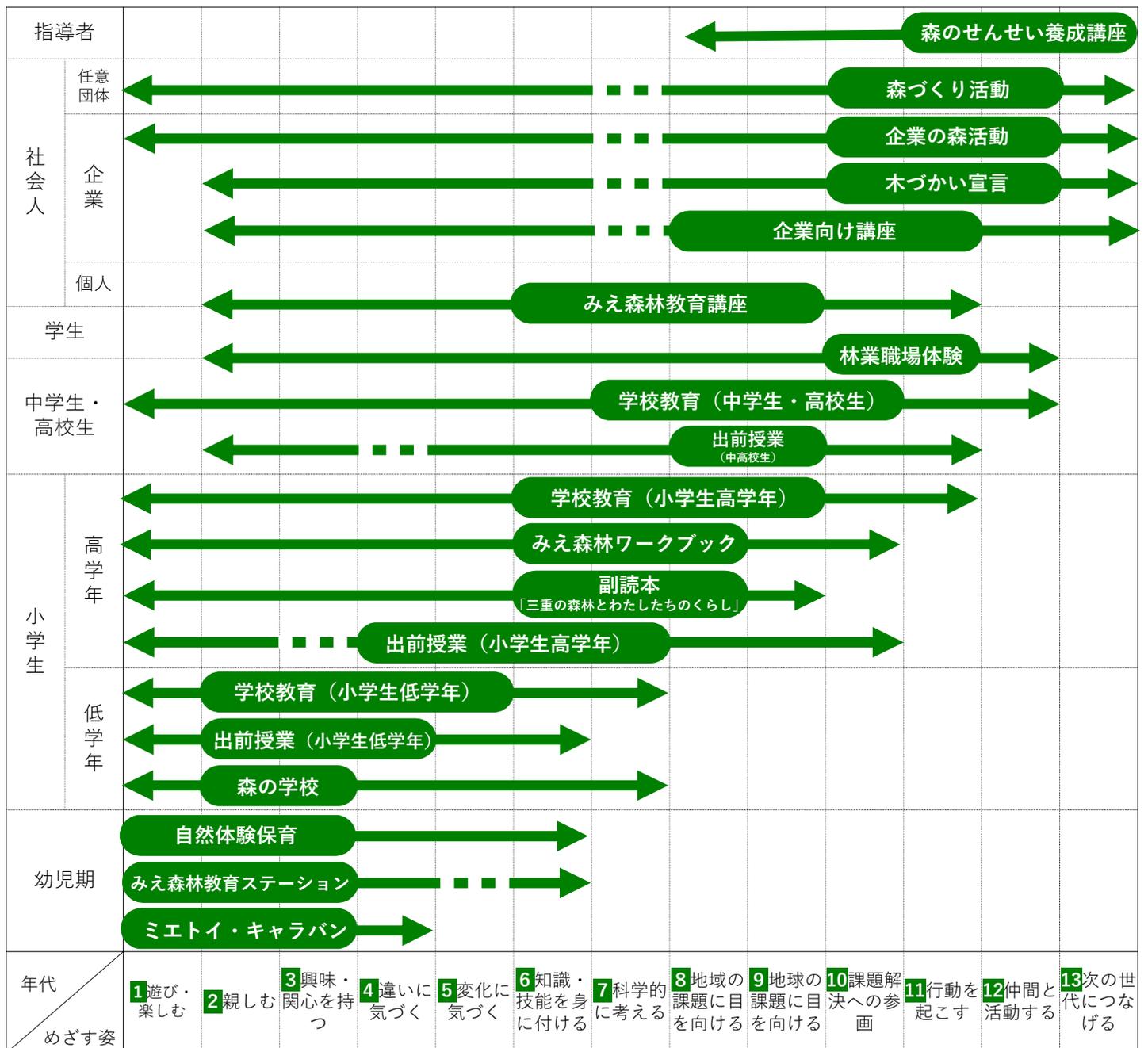


図2：みえ森林教育がめざす年代ごとの姿と関連する取組

4 学校教育の中で実施される森林教育への期待

令和4年7月に三重県が実施した「三重の森林づくりに関する県民意識調査」では、子どもの頃に森林とふれあう機会が多かった人ほど、森林に積極的に関わっていきたいと考える傾向があることが明らかになりました。このようなことから、子どもを対象とした森林教育は、「みえ森林教育ビジョン」が目標とする人物像「森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）」を育むうえで、より効果的であると考えられます。

また、一般に参加を募って行うイベント型の森林教育では、保護者の教育方針や家庭環境により参加できる子どもが限られてきますが、学校教育の中で実施される森林教育では、多くの子どもたちが平等に森林教育を受ける機会を得ることが期待できるため、県では小中学校などの学校教育の中での森林教育の取組を推進しています。

【参考】学校教育で活用できる副読本・みえ森林ワークブックを発行・配布しています

県では、学校教育における森林教育を推進するため、副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」（小学5年生社会）と、みえ森林ワークブック（小学5年生社会、小学6年生理科）を発行し、県内の小学生に配布しています。ぜひ、ご活用ください。



副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」及びみえ森林ワークブックは三重県のホームページからダウンロードできます。



副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」を紹介した県ホームページ
<https://www.pref.mie.lg.jp/SHINRIN/HP/mori/87423000001.htm>

みえ森林ワークブックを紹介した県ホームページ
<https://www.pref.mie.lg.jp/RINGI/HP/m0135700117.htm>



5 森林教育プログラムの進め方

様々な場面で実施される森林教育プログラムの標準的な進め方を図3に示しました。

森林教育指導者（森のせんせい等）が森林教育プログラムを企画・提案し運営していくうえで、まず、森林教育を行うに至った経緯や目的を整理し、次に、森林教育を行おうとする環境条件（対象者の年代や特性、地域の自然環境や文化）を関係者間で確認したうえで、指導者の経験や知識を生かした森林教育プログラムを組み立てていきます。

そして、森林教育を行う際には、より深い学びとなるよう、主体的・対話的な手法を取り入れることが重要です。

特に、児童・生徒に対して森林教育を行う際は、子どもたちが学校で学習指導要領に基づいた学習を受けていることを考慮し、年齢・学年に応じて図4に示す「学習指導要領に基づく森林や木、木材に関連する学習内容」を参考に、学習のねらいやテーマを設定します。

なお、今回示した手順はあくまで標準的なものであるため、森林教育を実施する対象や地域の環境条件、指導者の経験・力量に応じて、みえ森づくりサポートセンターの森林教育コーディネート事業を活用するなど、創意工夫して森林教育プログラムを企画・提案し運営する必要があります。

	内 容
手順1：目的と環境条件の確認	<ul style="list-style-type: none"> 経緯・目的（森林教育を行うに至った背景や期待する効果、学習のねらい）と環境条件（対象の年齢・特性、時期、場所、予算など）を確認する
手順2：学習のねらいとテーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> 手順1の内容を踏まえて、学習のねらい（めざす年代ごとの姿、育成する資質・能力）※3と、学習テーマ（学習内容・単元）※4を設定する
手順3：企画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 目的や環境条件、学習のねらいとテーマを踏まえ、森林教育プログラムの概要（実施日、所要時間、場所、対象者の年齢・人数、指導者、取組の概要など）を示した企画書を作成します。
手順4：事前打合せ	<ul style="list-style-type: none"> 関係者間で手順3で作成した企画書の内容について、共通認識を持ちます。 準備期間や当日のスケジュールは無理のない内容となっているか、必要な人員・資材・経費などは確保できるかについて調整します。
手順5：森林教育プログラムの作成	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の内容を踏まえ、詳細な手順や学びの展開を組み立てて、森林プログラム（指導計画）を作成します。 作成したプログラムが、手順2で定めた学習のねらいやテーマを達成させるものとなっているか、主体的・対話的な学習内容の組み立てとなっているかを、確認します。
手順6：森林教育プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを得られるよう、参加者ファーストの柔軟な姿勢で、関係者が一体となって、森林教育プログラムを実施します。
手順7：実施後の聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> 森林教育を受けた方々や、関係者を対象にアンケート調査を行うなどして、実施した森林教育プログラムに対する意見や感想を聞き取ります。
手順8：ふりかえり（評価）	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取り（アンケート）の結果から、ふりかえり（評価）を行い、反省点や改善策を整理します。 聞き取り（アンケート）結果とふりかえり（評価）を関係者間で共有し、今後の森林教育活動に活かします。

図3：森林教育プログラムの標準的な進め方

※3 学習のねらい：図1「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿」（育成する資質・能力）を参考に設定
 ※4 学習テーマ：図4「学習指導要領に基づく森林や木、木材に関する学習内容」を参考に設定する

図4：学習指導要領に基づく森林や木、木材に関連する学習内容（参考）巻末に「学習指導要領における学習内容と掲載事例一覧」を掲載しています。

視点	幼児期	小学1・2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学生	高校生	
学習のテーマ・単元	<p>幼児教育</p> <p>感じる 季節の変化</p> <p>美しさ 不思議さ</p> <p>触れる 遊ぶ つくる</p> <p>命の尊さ</p>	<p>生活</p> <p>四季の変化 成長</p> <p>面白さ 不思議さ</p> <p>遊び 観察 育てる</p>	<p>社会科</p> <p>地域の 生産活動</p> <p>理科</p> <p>身の回りの 生物</p> <p>成長過程</p> <p>植物の 体のつくり (根・茎・葉)</p> <p>比較する</p>	<p>社会科</p> <p>歴史的背景 自然環境と 地場産業</p> <p>飲料水と 森林保全</p> <p>自然災害</p> <p>理科</p> <p>水の循環 気温の変化 (森の内と外)</p> <p>季節と生物</p>	<p>社会科</p> <p>気候と植生分布 森林資源のはたらき 森林と人々のくらし 森林を保全する仕事 (林業)</p> <p>森林資源と木材生産 木材需要と木材輸入 自然災害と森林整備</p> <p>理科</p> <p>水の作用 (土砂運搬)</p> <p>生物の体内の水 条件付けと変化 植物の 発芽・成長・結実</p>	<p>社会科</p> <p>地球規模の課題 地球温暖化・貧困 国際連携 日本の役割</p> <p>理科</p> <p>燃焼 蒸散・呼吸 植物における 酸素と二酸化炭素 の出入り 養分(でんぷん) の行き方 食物連鎖</p>	<p>社会科</p> <p>森林資源 環境×人口(過疎化) ×資源×エネルギー 国際社会の中の日本 地形・気候、エネルギー利用 森林資源と環境・木材生産 国際協力</p> <p>理科</p> <p>科学技術の発展 二酸化炭素排出量の変化 光合成 共通点と相違点 多様性と進化</p> <p>技術・家庭</p> <p>栽培・飼育 エネルギー変革技術 加工技術 持続可能な社会の構築 消費者の権利と責任</p>	<p>社会科</p> <p>生活文化と森林環境 自然景観と人間生活 地球環境問題(地形×気候×生態系) 地球環境問題、資源とエネルギー問題 人口・食料問題、移住・都市問題 持続可能な社会の実現 資源・エネルギーと産業 自然災害と人間生活、備えと対応</p> <p>理科</p> <p>自然景観と自然災害 地球環境の変化と人間生活 エネルギー、生態系(物質生産・物質循環) 呼吸×光合成×代謝×ATP 個体群・生物群集 多様性(生物・生態系) 生態系バランスと人為的攪乱 生態系と人間生活、資源の再利用</p> <p>技術・家庭</p> <p>持続可能な社会への参画 持続可能なライフスタイル(消費)</p>	<p>社会科</p> <p>探求的な学習 地域や学校の実態 生徒の特性に応じた課題 自然体験・就職体験活動・ボランティア活動 などの社会体験 ものづくり・生産活動などの体験活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会的・就業的自立</p>
							<p>道徳</p> <p>自然を大切に 命の専属性・有効性</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 地域の自然環境と人々のくらし、伝統・文化などの地域や学校の特色に応じた課題 自然体験・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>キャリア形成と自己実現 遠足・集団宿泊的行事(見聞を広め、自然や文化に親しむ) 社会奉仕の精神、当番活動・係活動(自己の役割の自覚)、勤労の尊さ・生産の喜び</p>	
							<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	
							<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	
							<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	<p>道徳</p> <p>自然の偉大さ、命のつながり</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探求的な学習 職業や自己の将来に関する課題 自然体験・職場体験 ・ボランティア活動</p> <p>特別活動</p> <p>社会生活と職業生活の接続</p>	

第2章 めざす姿に応じた森林教育プログラム ～ 取組事例 ～

ここでは、令和5年4月から6年12月の間に県内各地で実施された取組事例を、みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）に関連付けて掲載しています。

01 遊び・楽しむ P.13

- ・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

01 取組事例 2歳児 森へLet's go～自然保育につなげるための未就学児園庭整備～ P.13

02 親しむ P.14

- ・身近な動植物への接し方について考える
- ・身近な動植物に親しみや優しさを持って接する
- ・身近な動植物を命あるものとしていたわり、大切にする
- ・命の尊さに気づく
- ・普段とは違う生活環境で、自然や文化に親しむ

02 取組事例 大木から園庭遊具をつくろう～身近な環境を通して木の命を知り、活かすことの大切さを学ぶ～ P.14

03 興味・関心を持つ P.15

- ・自然や動植物にふれて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもって関心を高める
- ・自然とのふれあいの中で様々な事象に興味・関心をもつ
- ・自然などの身近な動植物に関心をもち、取り入れて遊ぶ

03 取組事例 木を知って、木にふれて、木で作ろう！！～三重のいろいろな木を切ってみたよ～ P.15

04 取組事例 宮川ラブリバー公園を探索しよう P.16

05 取組事例 森のおくりもので作品をつくろう！～オブジェづくり～ P.17

04 違いに気づく P.18

- ・自然物の色や形の特徴を生かして、ものづくりにいかす
- ・身の回りの生物について、観察したり飼育する中で、環境や体のつくりを比較する
- ・生物には、色や形、大きさなどに違いがあることを知る

06 取組事例 身近な森の植物、生き物とふれあう自然体験～教科書に出てくる葉っぱとどんぐりを探そう～ P.18

07 取組事例 大仏山公園を探検しよう P.19

08 取組事例 わくわく自然探検隊～森の木の実 編～ P.20

09 取組事例 こども森の写真教室～夏休みはカメラを持って森へ行こう！～ P.21

05 変化に気づく P.23

- ・身近な自然の観察を通して、自然の様子や四季の変化に気づく
- ・動物を飼ったり、植物を育てる活動を通して、成長の様子や変化に関心をもってはたらきかける
- ・植物の育ちには一定の順序があることに気づく

10 モデル事例 桜カレンダー～1年を通して、桜の木とそこに集まる生き物を観察しよう～ P.23

- ・森林の次のはたらきについて、人々のくらしや経済活動と関連付けて、知識として身に付ける
 - ① 快適な環境をつくる
 - ② 二酸化炭素をたくわえる
 - ③ きれいな空気をつくる
 - ④ 木材を生み出す
 - ⑤ 水をたくわえる
 - ⑥ 風や砂を防ぐ
 - ⑦ 川や海を豊かにする
 - ⑧ 動植物のすみかとなる
 - ⑨ 土を支える
- ・林業や木材加工に使用する道具の使い方や、基本的な林業の施業技術及び木材加工技術を身に付ける

- | | | |
|----|---|------|
| 11 | 取組事例 おいしい水と森林の関係～おいしい水をつくる豊かな森林をまもるために～ | P.24 |
| 12 | 取組事例 樹木と友だちになろう～樹木の観察を通して～ | P.26 |
| 13 | 取組事例 地域の林業活動を知ろう～森林と地域の自然や生活とのつながり～ | P.27 |
| 14 | 取組事例 森林や林業の話 県産材を使おう～カード立て作り体験～ | P.28 |
| 15 | 取組事例 森の学習 | P.29 |
| 16 | 取組事例 身近な森の良さを知ろう～三重県のスギを使った箸づくりを通して～ | P.30 |
| 17 | 取組事例 森林や木材について学ぼう | P.31 |
| 18 | 取組事例 マイ箸を作ってみよう！ | P.32 |
| 19 | 取組事例 森のせんせいと一緒に森や木について楽しく学んでキーホルダーをつくろう！！ | P.33 |
| 20 | 取組事例 森林や林業の話を聞いてみよう！～林業の果たす役割とは？～ | P.34 |
| 21 | 取組事例 マイスプーンを作ろう～森林学習を通して～ | P.35 |
| 22 | 取組事例 三重の木を知ろう！～丸太切り体験とコースター作り～ | P.36 |
| 23 | 取組事例 里山公園を歩いて地元の自然環境・里山の魅力を知ろう | P.37 |
| 24 | 取組事例 こどもちゃれんじ教室 | P.38 |
| 25 | 取組事例 木育体験教室～みて、さわって、つくって～ | P.39 |
| 26 | 取組事例 森のおくりもので作品をつくろう！～コースター作り、リース作り～ | P.40 |
| 27 | 取組事例 クップを体験しよう | P.41 |
| 28 | 取組事例 森や木に関して理解をし、木にふれ、工作を楽しむ | P.42 |
| 29 | 取組事例 身近な樹木から学ぼう～身近な樹木と私たちのくらしのつながり～ | P.43 |
| 30 | 取組事例 『森』を知ろう～マイバターナイフ作り～ | P.44 |
| 31 | 取組事例 2023年度 お楽し森の学校 | P.45 |
| 32 | 取組事例 親子で「夏休み木工体験」をやってみよう！～丸太切り体験から林業の仕事を考える～ | P.46 |

07 科学的に考える

- ・実験や観察、調べ学習の結果と関連付けて森林・林業・木材についての理解を深める
- ・実験や観察、調べ学習の結果を分析し、その特徴や規則性を見いだす
- ・観察に基づき共通点や相違点を見いだし、動植物が分類できることを見いだす

- | | | |
|----|--|------|
| 33 | 取組事例 苗木の実験から森のはたらきを考える～森林の「土を支えるはたらき」を知ろう～ | P.48 |
| 34 | 取組事例 きれいな水、おいしい水のヒミツを探る | P.49 |
| 35 | 取組事例 御糸米 <small>みいとまい</small> のおいしさのヒミツは森林にある？
～豊かでいきいきとした森林を守るためにできること～ | P.51 |
| 36 | 取組事例 知れば知るほどおもしろい！～森林のはたらきとわたしたちのくらし～ | P.53 |
| 37 | 取組事例 田んぼの水はどこから？～森林のはたらきとわたしたちのくらし～ | P.55 |
| 38 | 取組事例 アカデミー棟から学ぶ森林のはたらき～豊かな森林づくりの大切さと、森づくりに携わる仕事～ | P.56 |

08 地域の課題に目を向ける P.58

- ・森林・林業における地域の課題があることを知る
- ・地域の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

39 **取組事例** 地域の里山を守る林業～森林整備の大変さと大切さ～ P.58

40 **取組事例** SDGsと地元の林業～持続可能な社会づくりのために、地域の林業を学ぼう～ P.59

09 地球の課題に目を向ける P.61

- ・森林・林業における地球規模の課題があることを知る
- ・地球規模の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

41 **取組事例** 木の二酸化炭素固定量を調べよう！～森林の二酸化炭素をたくわえるはたらきの重要性～ P.61

10 課題解決への参画 P.62

- ・地域や地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて検討する
- ・課題解決に向けた行動やはたらきかけについて考え、仲間と議論する
- ・課題解決策について整理し、仲間と共有する

42 **取組事例** R6 ジュニアフォレスター育成講座～森林の価値を考えよう！～ P.62

43 **取組事例** R5 ジュニアフォレスター育成講座～森林の価値を考えよう！～ P.64

44 **取組事例** 森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会～Think Globally,Act Locally.～ P.66

45 **取組事例** 三重ジュニアドクター育成塾～アントレプレナーシップセミナー 三重の林業・製材業と地域の活性化～ P.67

46 **取組事例** 高校生を対象とした森林教育 P.68

11 行動を起こす P.69

- ・課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- ・モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- ・社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

47 **取組事例** R6 企業向け講座～SDGs時代の企業における森林とのつきあい方について考えるVol.4～ P.69

48 **取組事例** R5 企業向け講座～SDGs時代の企業における森林とのつきあい方について考えるVol.3～ P.71

49 **取組事例** カブトムシが飛び交う森づくり～産卵場作りと樹液の出る樹木の植林活動～ P.72

50 **取組事例** いがの木を使った消毒液台制作～上野南小学校への贈り物～ P.73

12 仲間と活動する P.74

- ・関係者間でよりよい信頼関係を築き、助け合いの下、継続的に活動する

51 **取組事例** 「AGF®ブレンディ®の森」第39回森づくり活動～企業がすすめる森林保全活動～ P.74

52 **取組事例** 「三重漁民の森」の活動～植林活動から豊かな海を発信する～ P.75

53 **取組事例** 三重の木の椅子展4～木工作家が発信する三重の木の魅力～ P.76

13 次の世代につなげる P.77

- ・森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会づくりに向けて、次の世代へ働きかけを行う
- ・森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりに取組む

54 **取組事例** みえ森林教育アドバイザー派遣～専門家と一緒に考える、森林をフィールドとした保育活動～ P.77

55 **取組事例** 森のせんせい養成講座～NEALリーダー（自然体験活動指導者）編～ P.78

56 **取組事例** 森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む指導者養成講座 P.80

57 **取組事例** 里山保全基礎講座～里山保全活動④安全な間伐・除伐の作業と道具の使い方を身につける～ P.81

取組事例におけるめざす姿（育成する資質・能力）

取組事例番号	みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）												
	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13
	遊び・楽しむ	親しむ	興味・関心を持つ	違いに気づく	変化に気づく	知識・技能を身に付ける	科学的に考える	地域の課題に目を向ける	地球の課題に目を向ける	課題解決への参画	行動を起こす	仲間と活動する	次の世代につなげる
01													
02													
03													
04													
05													
06													
07													
08													
09													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													
31													
32													
33													
34													
35													
36													
37													
38													
39													
40													
41													
42													
43													
44													
45													
46													
47													
48													
49													
50													
51													
52													
53													
54													
55													
56													
57													

主としてめざす姿
 関連してめざす姿

01 遊び・楽しむ

・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

取組事例

01

2歳児 森へLet's go

～ 自然保育につなげるための未就学児園庭整備 ～

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 いしくれ 石榑保育園 2歳児



森の中を散策している様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	園庭及び近隣の森林
時間	2時間30分
対象・人数	2歳児 15人
講師	森のせんせい1人（才賀美奈氏） いなべ市集落支援員1人
備考	園独自取組

めざす姿	01 遊び・楽しむ (02親しむ、03興味・関心を持つ)
ねらい	季節を感じ、自然の環境で遊ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の森を探索する ・木の実や落ち葉拾いを楽しんだり、落ちていた棒で遊ぶ ・森の中での体験をふりかえり、お話をする
学習指導要領との関連	<p>触れる・遊ぶ（幼児） 命の尊さ（幼児）、面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）</p>



木の実拾いを楽しんでいる様子



森の中を散策している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森に入った瞬間、足元がふかふかして何かがあると感じる子、視線を低くし虫さがし、棒を見つけて遊ぶ姿、木の実、草の実を採集する姿、今まで経験した事と森の中の現状の物をつないでお話をする子などそれぞれが森を満喫していました。
保護者のコメント	<p>※ 森での森林教育実施後に、保護者による園庭緑化の取組に発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何もなかった園庭に草花が芽生え虫が集まるようになり、子どもたちが夢中になって遊べる魅力的な環境となりました。大人だと見過ごしそうな物でも、子どもたちは立ち止まって発見し、喜ぶ姿が見られるようになりました。特に、砂場ハウスに植えられた草花を見つけた子どもたちは、見るだけでなく摘んで遊ぶことで、より遊びの幅が広がりました。このように園庭内でも身近な自然に触れることで、園外のフィールドに出ても自然の面白さに気付ける子に成長して欲しいなと願っています。

02 親しむ

- ・身近な動植物への接し方について考える
- ・身近な動植物に親しみや優しさを持って接する
- ・身近な動植物を命あるものとしていたわり、大切にする
- ・命の尊さに気づく
- ・普段とは違う生活環境で、自然や文化に親しむ

取組事例

02

大木から園庭遊具をつくろう

～ 身近な環境を通して木の命を知り、活かすことの大切さを学ぶ ～

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 やまさと山郷保育園 5歳児



木の伐採作業を見ている様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	園周辺の雑木林、園庭
時間	6時間
対象・人数	5歳児 33人
講師	いなべ市集落支援員1名 (田端 昇氏)
備考	独自取組

めざす姿	02 親しむ (01 遊び・楽しむ、03 興味・関心を持つ)
ねらい	大木に触れ、親しみの心を持ち、感性を豊かにする
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・木の伐採を見学し、林内の明るさが変化する様子を観察する ・伐採した木を造材し、園庭に運ぶ作業を手伝う ・丸太から園庭遊具（テーブルやイス等）をつくる作業を手伝う ・出来上がった遊具で遊ぶ
学習指導要領との関連	つくる（幼児） 感じる・触れる・遊ぶ（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）



チェーンソー造材でできた材を確認している様子



丸太をどのように使おうか？
考えている様子



できた遊具で遊んでいる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・目的がはっきりしていたため、やるべきことに全力で取り組む姿がみられました。大木が活着しているということを知りました。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな感覚をフル回転できた活動でした。中でも木の肌の感触や大木が倒れ込むときの音と重さに驚きと感動がもたらされました。

03 興味・関心を持つ

- ・自然や動植物にふれて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもって関心が高める
- ・自然とのふれあいの中で様々な事象に興味・関心をもつ
- ・自然などの身近な動植物に関心を持ち、取り入れて遊ぶ

取組事例

03

木を知って、木にふれて、木で作ろう！！

～ 三重のいろいろな木を切ってみたよ ～

桑名市立陽和幼稚園 4歳児及び5歳児と保護者



丸太を親子で切っている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	園庭及び保育室
時間	2時間30分
対象・人数	4歳児及び5歳児25人とその保護者
講師	森のせんせい2名 (才賀美奈氏、向田恵子氏)
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育コーディネート

めざす姿	03 興味・関心を持つ (01遊び・楽しむ、02親しむ)
ねらい	木に親しみをもち、木の作品づくりを楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・木や森のおはなしを聞き興味・関心を持つ（5歳児） ・もりぼーるや積み木などの木製玩具を楽しむ（4歳児） ・丸太切り体験とコースター作り（5歳児）オブジェづくり（4歳児）を楽しみ、木に親しむ
学習指導要領との関連	不思議さ（幼児） 感じる・触れる・遊ぶ・つくる（幼児）、面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）



木が集まって森になることを絵を使って学んでいる様子



丸太切りで切り出した円盤でコースターの絵付けをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・木の香りはすごく癒されるということに感動した。 ・スギやヒノキのことがくわしく分かった。 ・丸太を伐って、ペーパーできれいにし、絵をつけたりしたことが楽しかった。 ・もっと森を大切にしようと思った。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなコースターをつくる過程で、木の性質をたくさん知ることができ、大変勉強になりました。 ・子どもたちにとっては、初めて触る道具もあり、うれしかったようでした。 ・木に囲まれた生活を取り入れたいと思いました。 ・森や木と日常生活との関わりが、とても重要なことがわかりました。

03 興味・関心を持つ

取組事例

04

宮川ラブリバー公園を探索しよう

伊勢市立豊浜東小学校 1～2年生



森の中の音に耳を傾けている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	宮川ラブリバー公園
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学1～2年生 15人
講師	森のせんせい1名（宮本英明氏）
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	03興味・関心を持つ （01遊び・楽しむ、02親しむ、04違いに気づく）
ねらい	自然の中の動植物とふれあい、自然体験を楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森の中の音を聞く ・どんぐりをひろい、色や形の違いを観察する ・カエデの種がくるくると回りながら落ちていく様子を楽しむ ・木の実から小さな芽を出した「木のあかちゃん」を見つけ観察する
学習指導要領との関連	面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活） 触れる（幼児）、遊び・観察（小学1～2年生生活）、比較する（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



拾ったどんぐりを比べている様子



カエデの種が落ちる様子を観察している様子



「木のあかちゃん」を探している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリや木の実が森にとって、大事な役割をしていることがよく分かりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥や虫の声、木の葉が揺れる音を聴いたり、木の実を観察したりして、子どもたちが自然を再発見することができました。

03 興味・関心を持つ

取組事例

05

森のおくりもので作品をつくろう！

～ オブジェづくり ～

伊勢市立上野小学校 1～2年生



チェーンソーの説明を聞いている様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	校庭及び教室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学1～2年生 29人
講師	森のせんせい1人 （福山成宣氏）
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	03 興味・関心を持つ （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、06 知識・技能を身に付ける）
ねらい	森や木に興味・関心を抱き、木の作品づくりを楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーンソーで丸太を切る様子を見学する ・森や林業について学び、興味・関心を抱く ・木の実や枝を使ってオブジェづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活） 触れる・遊ぶ・つくる（幼児）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）



オブジェづくりをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木の実などを持参できなかった児童もいましたが、当日、森のせんせいが用意してくれたたくさんの木の実や枝等で、どの児童も十分に材料を手にして自分だけの作品をつくることができ、満足そうでした。身近に見かけない大きなマツボックリなどを手にできて、とても良かったです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェーンソーでの丸太切りなど、普段できない体験ができて大変良かったです。 ・ お話も、クイズを交えた楽しくわかりやすい内容で、子どもたちも楽しく聞くことができました。

04 違いに気づく

- ・ 自然物の色や形の特徴を生かして、ものづくりにいかす
- ・ 身の回りの生物について、観察したり飼育する中で、環境や体のつくりを比較する
- ・ 生物には、色や形、大きさなどに違いがあることを知る

取組事例

06

身近な森の植物、生き物とふれあう自然体験

～ 教科書に出てくる葉っぱとどんぐりを探そう ～

伊勢市立明野小学校 1年生



聞こえてきた音を発表している様子

実施時期	令和6年11月
実施場所	大仏山公園とその周辺
時間	2時限（45分×2）×2回
対象・人数	小学1年生 134人
講師	森のせんせい4人 （野垣内久見子氏、藤川和彦氏、宮本秀明氏、森川貴史氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	04 違いに気づく （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ）
ねらい	教科書に出てくる植物を中心に、身近な自然の姿に興味を持ち、違いに気づく
内容	4つの地点を回り、それぞれの場所で様々な体験を通して、自然の姿の違いに気づく ・ ヨモギ、ヒノキ、クスノキの葉の肌触りや香りを感じ、私たちの生活とのかかわりについて学ぶ ・ 森の中の音に耳を傾け、いろんな音に気づくとともに、葉っぱで笛を作って吹く遊びを楽しむ ・ いろんな種類のどんぐりや木の葉を手に取り、それぞれの違いや特徴を比較する ・ ネイチャーゲームで森の中のさまざまな動植物を探す体験を通して、森にすむ生き物の様子に気づく
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



ヒノキの香りの説明を聞いている様子



アリを探している様子



木になっているどんぐりを観察している様子

準備物	説明するためのパネル資料、ネイチャーゲームのカード
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんぐりにちゃんと種類があることを知らなかった。 ・ どんぐりの中に幼虫が入ってたのがすごかった。 ・ 葉っぱって、においがするんだな、すごいなと思いました。 ・ 次、大仏山公園に行ったら弟とどんぐり探しをしたい。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前授業をととても喜んでいました。今まで知らなかったことに気づき、自然に親しめたようでした。

04 違いに気づく

取組事例

07

大仏山公園を探検しよう

伊勢市立進修小学校 1～2年生



色みつけの様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	大仏山公園
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学1年生 29人 小学2年生 28人
講師	森のせんせい3人 （野垣内久見子氏、藤川和彦氏、宮本秀明氏）
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	04 違いに気づく （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ）
ねらい	自然体験を楽しみ、自然の中の動植物とふれあい、その違いに気づく
内容	3つの地点を回り、それぞれの場所で様々な体験を通して、自然の違いに気づく 【色みつけ】自然の中にある色に自分で色の名前を付ける遊びを通して、木の葉や木の実がいろんな色をしていることに気づく 【手ざわり】松の葉や松ぼっくりの手ざわりの違い感じるとともに、松葉相撲を楽しむ 【どんぐり探し】どんぐりを拾い、どんぐりの形や色、帽子（殻斗）の違いを比較し、どんぐりにはいろんな種類があることを知る
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



森のせんせいからどんぐりの説明を聞いている様子



どんぐりを探している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 初めて体験する子どもたちにとって、新鮮で楽しい体験活動になりました。知識として知っていても、体験することで、より深い学びになっていました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 本体験活動後に保護者から手紙をもらいました。普段できない貴重な体験活動を実施してもらってありがたいという意見でした。加えて、今後、子どもと一緒に自然に触れ合う活動をしていきたいという意見もありました。保護者に対しても良い啓発になりました。 短い時間の中で内容の濃い活動を多く取り入れていただきありがとうございました。短い時間設定でお願いしたので、このようなことをコメントするのは大変恐縮ですが、子どもたちに一つひとつ、それぞれの体験活動をもっとじっくりさせてあげられるような時間設定でお願いすれば良かったです。

04 違いに気づく

取組事例

08

わくわく自然探検隊

～ 森の木の実編 ～

四日市市少年自然の家 小学3～5年生



どんぐり拾いの様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	四日市市少年自然の家
時間	5時間30分
対象・人数	小学3～5年生 13人
講師	川村龍也氏
備考	四日市市少年自然の家独自事業

めざす姿	04 違いに気づく (01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、06知識・技能を身に付ける)
ねらい	自然体験を楽しみ、自然の中の動植物とふれあい、その違いに気づく
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの話を聞いて、どんぐりにはいろんな種類があることを知る ・森に出かけ、たくさんの種類のどんぐりを拾い、その形や色の違いを比較する ・どんぐり虫を観察して、どんぐりと他の生き物との関わりを学ぶ ・どんぐりクッキーづくりを楽しみ、どんぐりに親しみを持つ
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



どんぐりの話を聞いている様子



どんぐりクッキーを作っている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・もじゃもじゃ帽子、おしゃれ帽子、しましま帽子、うろこ帽子のどんぐりがあることがわかりました。 ・どんぐりから虫が出てきてびっくりしました。 ・どんぐりを食べたら味がしなくて、クルミの食感がしました。
講師のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは、どんぐりを食べることに抵抗があった子もいましたが、最終的には全員に食べてもらえて、楽しそうな様子だったので安心しました。 ・子どもたちの反応もよく、どんぐりについてより興味をもってもらえたのではないかと感じました。

04 違いに気づく

取組事例

09

こども森の写真教室

～ 夏休みはカメラを持って森へ行こう！ ～

三重県林業研究所 小学生とその保護者



森の中で写真の取り方の説明を受けている様子

実施時期	令和6年7月
実施場所	三重県総合博物館（MieMu）
時間	3時限
対象・人数	小学1～6年生とその家族11人
講師	写真家 松原 豊氏
備考	県主催事業

めざす姿	04 違いに気づく （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、06 知識・技能を身に付ける）
ねらい	カメラを通して森や自然のおもしろさや豊かさを発見し、その違いに気づく
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラの基本的な使い方を学ぶ ・みえの森フォトコンテスト入賞作品から、森の写真の魅力を知る ・ミュージアムフィールドで森の写真の撮影を楽しむ ・撮影した写真を観ながらふりかえりを行い、森の魅力や様々な表情に気づく
学習指導要領との関連	創作活動（小学校4～6年生図画工作） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）

森林教育プログラムの内容

はじまり

撮影アングルについての
レクチャーの様子



知る

視線を変えると
ちがった見え方
になります。

露出補正のやり方を教わっている様子



知る

カメラの
設定を変えるのは
始めて！

先生からカメラの設定の指導を受けている様子

体験する



個々のボタンで露出がかわるよ。

昨年度のフォトコンテストの入賞作品を見ている様子

知る



みんな
じょうずだなあ～

親子で撮影をしている様子

体験する



どれどれ・・・

ちゃんと撮れてるかな？

撮影した写真を親子で確かめている様子



これいいでしょ！

体験する

撮影した写真を鑑賞しながらふりかえりをしている様子



今日の教室は楽しかった？

ふりかえり

考える

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 森の中にはいろんな葉っぱやいろんな虫がいることがわかった。 森の中は気持ちがいいと感じた。 葉っぱの緑がきれいと感じた。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒に写真を撮りに、また森に行きたいと思います。 子どもが写真や森に興味を持つきっかけになったと思います。 子どもの目線の気づきに驚かされました。大人がスルーしてしまうことでも子どもは興味をもって写真を撮るもんだと思いました。

05 変化に気づく

- ・身近な自然の観察を通して、自然の様子や四季の変化に気づく
- ・動物を飼ったり、植物を育てる活動を通して、成長の様子や変化に関心をもってはたらきかける
- ・植物の育ちには一定の順序があることに気づく

モデル事例

10

桜カレンダー

～ 1年を通して、桜の木とそこに集まる生き物を観察しよう ～



実施時期	通年（4月・7月・10月・1月）
実施場所	校庭
時間	1時限×4回（観察） + 1時限（ふりかえり）

めざす姿	05 変化に気づく （02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく）
ねらい	季節により桜の姿やそこに集まる生き物に変化があることに気づく
内容	<p>※この取組は「変化に気づく」ことを目的に考案したモデル事例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて観察ができる身近な木（桜）を1人1本選ぶ ・春・夏・秋・冬と季節ごとに木の様子やそこに集まる生き物を観察する ・1枚の紙に、季節ごとの観察結果を書き込んでいく ・季節に応じた1年間の木の様子を書き込んだカレンダーを仲間で共有する
学習指導要領との関連	<p>四季の変化（小学1～2年生生活） 観察・育てる（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、地域の自然環境と人々のくらし（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）</p>

桜カレンダー

はる春

あちこちでハチが飛んでいた。
(ニホンミツバチ)

もじゃもじゃの毛虫がたくさんいた。(ドクガ)

ヒヨドリが桜の実を食べていた。
(ヒヨドリ)

なつ夏

ふだん見ないチョウチョがいた。(アサギマダラ)

メジロがさくらの花のミツをすっていた。
(メジロ)

セミがうるさいくらいミンミンなっていた。
(ミンミンゼミ)

しっぽがルリ色のトカゲが、さくらの木に登っていた。
(ニホントカゲ)

きれいなオレンジ色の鳥がさくらのつぼみを食べていた。
(ウン)

さくらの幹はコケだらけだった。ベタリしたものやモサモサしたものや、葉っぱを出してるのもあった。

おち葉の下でダンゴムシを見つけた。
(オカダンゴムシ)

落ち葉の中にコオロギがいた
(モリオカメコウロギ)

ふゆ冬

おち葉の下でダンゴムシを見つけた。
(オカダンゴムシ)

あき秋

06 知識・技能を身に付ける

- ・森林の次のはたらきについて、人々のくらしや経済活動と関連付けて、知識として身に付ける
 - ① 快適な環境をつくる ② 二酸化炭素をたくわえる ③ きれいな空気をつくる
 - ④ 木材を生み出す ⑤ 水をたくわえる ⑥ 風や砂を防ぐ ⑦ 川や海を豊かにする
 - ⑧ 動植物のすみかとなる ⑨ 土を支える
- ・林業や木材加工に使用する道具の使い方や、基本的な林業の施業技術及び木材加工技術を身に付ける

取組事例

11

おいしい水と森林の関係

～ おいしい水をつくる豊かな森林をまもるために ～

伊勢市立修道小学校 4年生

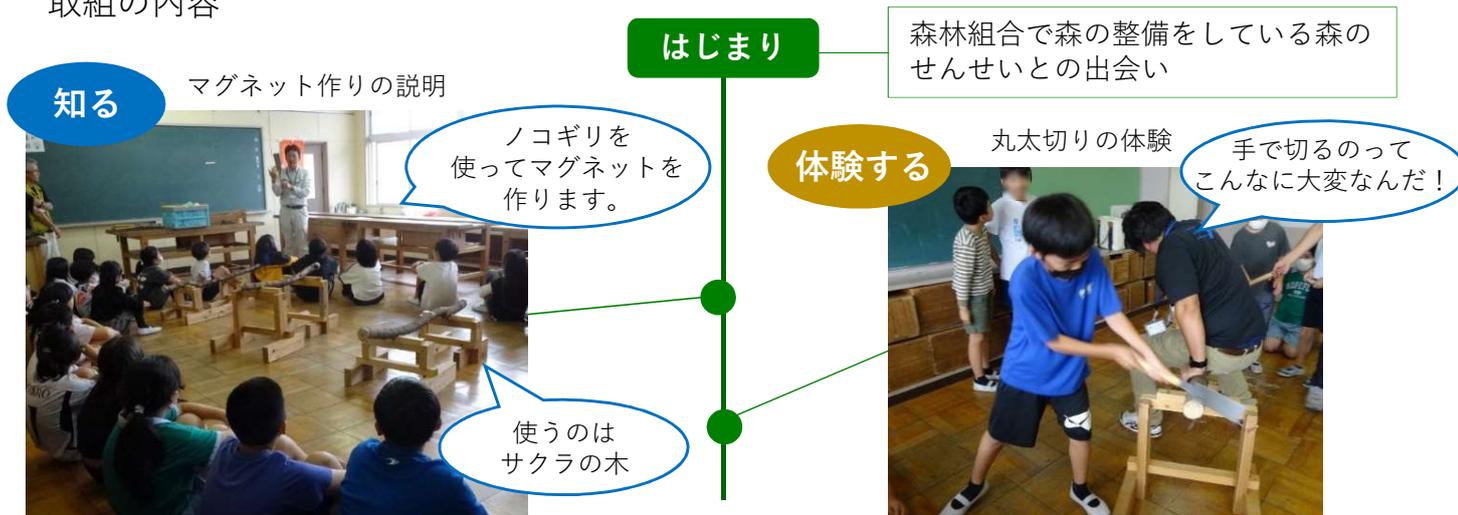


節のある板材と無節の板材を比べている様子

実施時期	令和6年10月
実施場所	教室、視聴覚室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学4年生 64人 （2クラス）
講師	森のせんせい2人 （いせしま森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	おいしい飲み水を提供してくれる豊かな森林を守ろうとする態度を養う
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・丸太切り体験・マグネット作りを通じて、手鋸の使い方を学び、木の香りや肌触りを知る ・森のはたらきについて学ぶ ・丸太や木製品を手に取り、枝打ちや間伐によって、質のよい木材が生産されることを知る ・上流に豊かな森林があるとおいしい水が飲めることから、森林を大切にすることを養う
学習指導要領との関連	飲料水と森林保全（小学4年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々のくらし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水的作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、食物連鎖（小学6年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々のくらし（小学生総合的な学習の時間）、勤労の尊さ・生産の喜び（小学生特別活動）

取組の内容



切り出した円盤でマグネットを作る

体験する

磨けば、磨くほど
つるつるになる。



好きな絵を描いて
自分だけの
マグネットが完成!



休憩

1クラスずつ、2時限で2クラスが
サクラの木のマグネットづくりを体験

森が水を貯えるはたらき

森はどれくらいの
雨水を貯えられる
かな?



知る

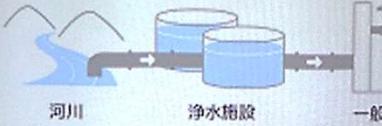
グラウンドと
森ではぜんぜん違う!

山からの水がおいしい理由

知る

山からの水はうまいっ

- 「水温がひくい」
- 「てきりよのミネラルを含む」
- 「いしゅう味がしない」



豊かな森が
おいしい水
を作っている。

この木は
何歳かな? 年輪 (年齢) を数える

体験する



年輪の幅が
違うね。

年輪を数えた木の葉っぱにふれる

体験する



これが
ヒノキの葉っぱ!

ふりかえり

森のせんせいに質問

考える



木は腐ったら
どうなるの?

山の水は
飲んでも大丈夫?

木はどれくらいで
伐るの?

3時限目は、2クラス一緒に森のせんせいの話を聞く

準備物	サクラの丸太、年輪を数えるための丸太の切りだし面、木の葉、木材のサンプル、木工の完成見本 (マグネット)、ポンド、紙やすり、丸太切り台、のこぎり
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> • 木をノコギリで切って、マグネットを作るのが楽しかった。 • 木の中にある丸は、1年に1個できることに驚いたし、木の年が分かるのがおもしろかった。 • 普段使っている木材や板は、たくさん手入れをして育てているからあんなにきれいなんだと思った。 • 木が大切に手入れされていることに感動した。 • こういう風に伐採していくのかな? と連想できて楽しかった。 • 木材の使い道について考えるようになった。 • 木はとても大事な役割をしていることに驚いた。 • 木は大切と思ったし、使っていきたいと思った。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> • 木を切る体験は、子どもたちがとても喜んでいました。とても貴重な体験ができました。 • 森の話を通して、もっと木を使いたいと思ったり、森林を大切にしたいと感じる子どもが多かったようです。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

12

樹木と友だちになろう

～ 樹木の観察を通して ～

多気町立外城田小学校 4年生



森のせんせいから木の話をしている様子

実施時期	令和5年7月
実施場所	校庭
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学4年生 10人
講師	森のせんせい1人 （宮川森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく）
ねらい	樹木のつくりを観察し、図鑑を使って樹種を調べる
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木の体のつくりの違いや見方を学ぶ ・ 図鑑を使って樹木の種類を調べる ・ 校庭の樹木に樹木銘板をつける
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）



図鑑の使い方を教えてもらっている様子



校庭の木の樹種名を図鑑で調べている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に20種類以上の木があることに驚きました。もっとよく観察して、木に詳しくなりたいです。次は、木が何かなのかを教えてください。 ・ クリとクヌギは似ているけれど、葉の特徴をよく見たら見分けられることがわかりました。 ・ 名前が分からなかったら「本で調べてみよう。」と言われてもらって、2つ自分で調べてみたら調べることができました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的に活動し、実物を見て観察したり、調べたりすることができました。その経験と意欲の高まりが、後の学習（理科・社会科・総合）へつながったと思います。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

13

地域の林業活動を知ろう

～ 森林と地域の自然や生活とのつながり ～

大紀町立大紀小学校 5年生



チェーンソーなどの林業の道具について学んでいる様子

実施時期	令和6年7月
実施場所	教室及び図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 10人
講師	森のせんせい2人 （片岡淳也氏、大紀森林組合1人）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	地域の林業が自然環境や産業に及ぼす影響について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の仕事の様子や、森のはたらきを発揮させるためには間伐が必要であることを知る ・林業に使う道具を見たり、林業をする人が工夫や努力をしながら林業に従事していることを知る ・間伐材の丸太を手鋸で伐り、コースター作りの体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、楽しむ
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



ノコギリを使った丸太切り体験の様子



電熱ペンで絵付けをしている様子

準備物	ノコギリ、丸太切り台、丸太3本、チェーンソー、防護衣、林業作業道具、紙やすり、電熱ペン、軍手
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで木のことを考えたことがなかったけど、出前授業を受けて、木を大切にしようと思った。 ・大きなチェーンソーはとても重かったけど、それを一人で持つことにびっくりした。 ・丸太切りは木が固くて腕が痛くなったので、これを何本も切るのは難しいと感じたし、家を作ってくれた人に感謝したいです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・木でできたものを見て「これは間伐材でできてるのかな？」と考える姿がみられました。 ・教室の窓から見える森林について、理解が深まったと思います。 ・この出前授業で学んだことを、社会科の「森林とわたしたちの暮らし」の単元で活用します。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

14

森林や林業の話 県産材を使おう

～ カード立て作り体験 ～

桑名市立青葉小学校 5～6年生



森林のはたらきについて学んでいる様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	教室及び図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生12人、6年生16人
講師	森のせんせい2人 （鈴鹿森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	森林のはたらきを知り、間伐材を使うことの意義について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の手入れをすることで、森のはたらきが維持でき、下流部や海の環境も保たれていることを知る ・ 年輪の数から、木により年輪幅など違いがあることを知り、その理由と森林整備との関連について考える ・ カード立て作りを通して、手鋸の使い方や大変さを知り、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



年輪を数えている様子



丸太の切り方を教わっている様子



丸太切り体験の様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広大な森林を管理することは大変だけれど、管理してくれる人がいるから、山崩れが起きないのだなとわかりました。 ・ 間伐材を使うことは、環境に良いということがわかりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の身近な場所にある山の役割を知ることができて、より自分たちの地域に好感を持つことができました。また、間伐材の有効利用をすることは、森林にも人にも良いことだと身をもって感じることができ、実体験できるこのような機会をさらに続けたいと思いました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

15

森の学習

東員町立城山小学校 5年生



森林教室の様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	学校に隣接する山林
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 30人
講師	森のせんせい10人 （NPO法人森林の風）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	地域の森づくり活動を通して、森林の大切さを知り、地域に愛着を持つ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹や丸太ベンチづくりの体験を楽しみ、地元の森や木に興味・関心を抱く ・ 樹木観察と森林教室で、森や木と人々の生活との関わり合いについて学ぶ ・ 大鋸を挽く体験を楽しむ
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、森林を保全する仕事（林業）・森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



木を植えている様子



木を植えている様子



ベンチを設置している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの活動も、とても楽しかったです。友達と仲良く活動できました。 ・ 先生がいろんなことを教えてくださったので、森について、もっと知りたいという気持ちになりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の風スタッフのみなさんのきめ細かなご指導ご支援のおかげで、どの子も森の学習を深めることができました。とても充実した2時間でした。 ・ このような素晴らしい森を持つ城山に愛着を持ち、今後も森を大切にすることを育ててほしいです。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

16

身近な森の良さを知ろう

～ 三重県のスギを使った箸づくりを通して ～

鈴鹿市立庄内小学校 5年生



森のはたらきについて学んでいる様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	図工室
時間	3時限（45分×3）
対象・人数	小学5年生 8人
講師	森のせんせい2人 （三栄林産株式会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	森林のはたらきを発揮させるため、木材を使うことの意義について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森のはたらきについて知り、緑のサイクルや木材利用の重要性について学ぶ ・ 丸太はその大きさや材質により、加工方法や用途が異なり、工夫して使われていることを知る ・ 箸づくりの体験を通して、カンナの使い方を知り、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



木材利用について学んでいる様子



カンナを使って箸作りをしている様子



最後にふりかえりをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までずっと森をなくすことが環境破壊につながると感じていたけれど、日本の森の問題として人工林がそのままになってしまっているという問題もあることを初めて知りました。 ・ 木の香りを今まで意識してかいたことがなかったけれど、自分で箸を作ってみて、木の香りの良さに驚きました。これからは、近くの森でも感じてみたいです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間目にはパネルを使った学習で、「森の働き」や「緑のサイクル」について質問を交えながら理解を深めることができました。 ・ 2時間目のマイ箸作りでは、児童は初めて扱う道具に困惑していましたが、丁寧に教えていただくことで、スギの香る素敵な箸を作ることができました。また、児童だけでなく教師が森について知る良い機会にもなりました。来年度以降はもっと多くの児童に学習の機会を設けられたらなと思いました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

17

森林や木材について学ぼう

伊勢市立明倫小学校 5年生



森林・林業について学んでいる様子

実施時期	令和6年1月
実施場所	体育館
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 60人
講師	森のせんせい2人 （有限会社森下林業）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	地元の林業の様子を知り、林業の役割を考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> 林業の仕事の様子や地域の森林や林業について知る 林業で使う道具にふれたり、樹齢100年を超える木の年輪を数える体験をする ノコギリを使った丸太切りやコースター作りの体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、楽しむ
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



林業に使う道具や装備を身に付ける体験をしている様子



ノコギリを使って丸太を切っている様子



森のせんせいに質問をしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 「意外と難しい」「かたくて、たいへん」と言いながら切り、切り終わると「わあ いいかおり」という声も聞こえてきました。その木材をサンドペーパーで磨き、自分だけのコースターを作りました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 普段何気なく目にしている木や木製品について、動画や写真、クイズなどを通してくわしく知ることができました。 コースター作りでは、手ざわりや香りなどを感じながら、木にふれ合う体験となり、貴重な時間となりました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

18

マイ箸を作ってみよう！

玉城町立有田うだ小学校 5年生



森林のはたらきや役割について学んでいる様子

実施時期	令和5年9月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 27人
講師	森のせんせい2人 （いせしま森林組合）
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく）
ねらい	森林の働きを知り、森林の役割や大切さについて考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> 森林のはたらきを知り、森林の役割や大切さについて考える 丸太と枝葉の組合せを当てるクイズで、木の特徴や違いを知る 小刀とサンドペーパーを使った箸作りの体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源と木材生産・森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



丸太と枝葉の組合せをクイズを通して学んでいる様子



小刀の使い方を学んでいる様子



箸作りを体験している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 全て楽しかったけれど、特にクイズや箸作りが楽しかったです。 山の大切さなどがわかりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 木の香りや手ざわりを感じながら箸作りを楽しむことができました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

19

森のせんせいと一緒に森や木について楽しく学んでキーホルダーをつくらう！！

徳和住民自治協議会 小学1～5年生



森の役割や大切さについて学んでいる様子

実施時期	令和5年8月
実施場所	徳和地区コミュニティセンター
時間	2時間
対象・人数	小学1～5年生 13人
講師	森のせんせい2人 (森林環境教育機構)
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける（ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ）
ねらい	森の役割や大切さを学ぶ
内容	・ 森のはなしやクイズを通して、森の役割や大切さについて学ぶ ・ 丸太からキーホルダーをつくる体験を通して、ノコギリの使い方を知り、木の香りやぬくもりを感じる
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、森林資源と木材生産、森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



電熱ペンを使ってキーホルダーづくりをしている様子



ノコギリの使い方を学んでいる様子



キリでキーホルダーの穴をあけている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森のせんせいのお話をみんな一生懸命聞き、クイズにも楽しそうに答えていました。 ・ キーホルダー作りもみんなで和気あいあいと作っていました。 ・ 「楽しかった。」と、自分が作ったキーホルダーを見せ合いながら話をしていました。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの笑顔をたくさん見る事ができました。 ・ 多学年との交流もできてよかったです。森や木についてより身近に感じてもらえる機会になりました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

20

森林や林業の話聞いてみよう！

～ 林業が果たす役割とは？ ～

伊勢市立小俣小学校 6年生



箸作りの説明を受けている様子

実施時期	令和6年12月
実施場所	体育館及び図工室
時間	4時限（45分×4） 座学：1時限×1回 （3クラス合同） 体験：1時限×3クラス
対象・人数	小学6年生 99人
講師	森のせんせい3人（いせしま森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿

06 知識・技能を身に付ける

（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）

ねらい

森林のはたらきと地域の林業について学び、環境問題やSDGsとの関わりについて考える

内容

- ・伊勢地域の林業や森林のはたらき、森林と環境問題の関係について学ぶ
- ・チェーンソーによる玉切りの見学や、林業に使う道具を知る体験を通して、林業に興味・関心をもつ
- ・木の年輪や重さを調べる体験を通して、木材の特徴や性質に興味・関心をもつ
- ・箸づくり体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ

学習指導要領との関連

森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科）

面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



森林のはたらきについて話を聞いている様子



いろいろな樹種の葉を比べている様子



箸作り体験の様子

準備物

丸太、丸太切り台、チェーンソー、防護衣、林業作業道具、箸材、紙やすり、ブルーシート

子どもの反応

- ・ 林業は、家を作るための木を集めるだけの仕事と思っていましたが、実際はいろいろなことをしている仕事ということが分かりました。
- ・ チェーンソーで木を切るところがおもしろかったです。林業は機械なども活用していて、機械の大きさや性能に驚きました。
- ・ チェーンソーを持ったけどこんなに重いものをもって仕事をしているのはすごいと思いました。
- ・ 林業は森林を手入れすることで森林だけでなく海にもいい影響があるいい仕事だと思った。

学校のコメント

- ・ 林業に対する興味や関心を持ったようで、出前授業の後も、箸作りのことや林業で木を切っていることなどを話す姿が見られました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

21

マイスプーンを作ろう

～ 森林学習を通して ～

伊賀市立大山田小学校 6年生



森のせんせいの話

実施時期	令和5年12月
実施場所	ランチルーム
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学6年生 34人
講師	森のせんせい1人（芝野利夫氏）
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「大山田小学校伊賀の森っこ推進事業」

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	自然と人間がともに生きていくことの大切さについて考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林のはたらきについて学ぶ ・生きている樹木を木材として利用することについて考える ・木のスプーン作りを楽しみ、木の香りや肌触りを感じる
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



森のせんせいの話を聞いている様子



スプーン作りを楽しんでいる様子



子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式での話をしてくれることも多かったので、積極的に発言する児童も何人か見られました。（座学） ・児童たちはとても楽しそうに体験を行っていました。自分が満足するまでつるつるに磨きたい児童も多く、休憩時間を使って仕上げていました。（体験）
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスプーン作りということで、子どもたちはとてもはりきって活動に取り組むことができていたと思います。また、森林の働きはとても大切なものだとう理解することができました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

22

三重の木を知ろう！

～ 丸太切り体験とコースター作り ～

四日市市立三重小学校 1～6年生



ノコギリで丸太を切っている様子

実施時期	令和5年7月
実施場所	図工室
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生 40人
講師	森のせんせい6人 (三重森林インストラクター会)
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく)
ねらい	木工体験を通じて木に親しみをもち、地域の森林や木について学ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で地域の森林や木について興味・関心を持ち、学ぶ 様々な樹種の木にふれ、木の違いに気づく 丸太切りやコースターやキーホルダーを作る体験を楽しみ、木の香りやぬくもりを感じる
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



様々な種類の木に触れている様子



地域の森林や木についてのお話の様子



出来上がったコースターやキーホルダー

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 「もう一つ作りたい！もっと磨きたい！」との声がたくさんあがりました。ホダ木の木を切った児童は、中にキノコの菌が入っていることを知って、みんなで匂いをかいだり他の木と比べてみたりしました。「キノコの菌が入った木は少し酸っぱいような森のような匂いがする！」と香りの違いにも気づくことができました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中の子どもたちに楽しい経験をさせていただきありがとうございました。時間が足りないほど充実した時間を過ごすことができました。お手伝いしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

23

里山公園を歩いて地元の自然環境・里山の魅力を知ろう

名張市立桔梗が丘南小学校 4～6年生



クイズラリーの中で地域の里山の姿を見ている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	東山ふれあいの森
時間	3時間
対象・人数	小学4～6年生 111人
講師	桔梗が丘自治連合協議会 地域ボランティアスタッフ
備考	市独自事業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく)
ねらい	自然環境の大切さと、里山の役割について学び、里山保全について理解を深める
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東山ふれあいの森をフィールドに、クイズラリーを通して自然環境と里山の大切さについて学ぶ ・チェーンソーによる丸太切りの様子を見学し、里山保全の活動に興味・関心を抱く ・公園に生えている植物について学ぶ
学習指導要領との関連	地域の自然環境と人々の暮らし（総合的な学習の時間） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）



チェーンソーによる丸太切りを見ている様子



公園に生えている植物について学んでいる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の近くにありながらよく知らなかった里山の大切さや自然の豊かさをよく学ぶことができました。また、この大切な里山を守ってくれているボランティアの人がいることを初めて知り、多くの子どもたちから感謝の言葉が聞けました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・桔梗が丘南小学校では他の学年も含めて学年行事で東山ふれあいの森は何度か訪れていますが、このように時間をかけて森の中を歩き学ぶところまではできていませんでした。子どもたちにとって自然を学ぶ素晴らしい機会となりました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

24

こどもちゃれんじ教室

伊賀市教育委員会 小学生とその保護者



クイズで樹木について学んでいる様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	伊賀市焼尾国有林 遊々の森 「生き生き学びの森」
時間	2時間
対象・人数	小学生7人とその保護者
講師	三重森林管理署 職員
備考	伊賀市教育委員会事業「こどもちゃれんじ教室」

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	木に興味・関心をもち、森林のはたらきや木材の利用について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木の名前当てクイズや樹木の葉の観察を通して、樹木に興味・関心をもち、違いに気づく ・ 薪投げゲーム「クップ」を楽しみ、木にふれ、親しみを持つ ・ 「うんこドリル 森と暮らし」の問いから、森林のはたらきや木材の利用について考える
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ・観察（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



薪投げゲーム「クップ」を楽しんでいる様子



「うんこドリル 森と暮らし」を使って
森林のはたらきを学んでいる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかった。学校でもクップをやりたいです。 ・ 家でも森林について勉強したいと思いました。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを体験している児童は非常に楽しそうな様子で、森林を身近に感じ、その大切さも理解してもらえたと思います。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

25

木育体験教室

～ みて、さわって、つくって ～

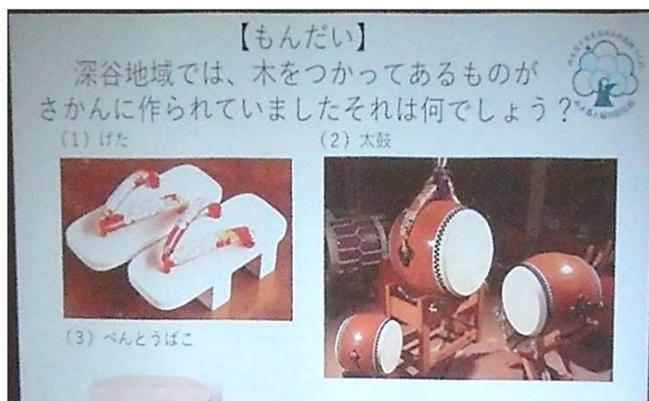
深谷教育集会所 小学1～6年生



クイズ形式で森林資源と地域の産業について学んでいる様子

実施時期	令和5年8月
実施場所	深谷教育集会所
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生 24人
講師	森のせんせい3人（林業女子会@みえ、館 俊樹氏、山根由士氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく）
ねらい	森林のはたらきや、森林資源と地域の産業とのつながりを知る
内容	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で地域の森林資源の様子や地元の太鼓づくりとの関係を知る 手鋸を使った丸太切りや、飾りつけの体験を通じて、木の香りや肌ざわりを感じ、木に親しみをもつ 木製玩具を使った遊びを楽しみ、木の肌触りを感じる
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



地元の太鼓づくりと森林の関係について学んでいる様子



丸太切りをして、飾りつけをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 木を切るのが大変でした。心配していたけどできてよかったです。かざりつけをするのはむずかしかったけど、楽しかったです。またやりたいです。 木の年のかぞえかたがわかりました。木にはいろんなしゅるいがあるんだなっておもいました。 メダルやキーホルダーをつくるのがたのしかったです。もう1こつくりたくなりました。クイズもたのしかったです。木がなんさいかわかるのはしらなかったです。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> どの活動でも、楽しんで学ぶ姿が見られました。また、活動をすることで、自然と児童たち同士で交流をする姿が生まれたのが良かったです。ねらいでもあった「森林に対する興味・関心」は深まったと感じました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

26

森のおくりもので作品をつくろう！

～ コースター作り、リース作り ～

伊勢市立上野小学校 3～6年生



森林のはたらきについて学んでいる様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	校庭及び教室
時間	2時間
対象・人数	小学3～4年生 24人 小学5～6年生 34人
講師	森のせんせい1人（福山成宣氏）
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	06知識・技能を身に付ける (01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく)
ねらい	木に親しみをもち、森林のはたらきや林業の仕事について知る
内容	<ul style="list-style-type: none"> チェーンソーで丸太を切る様子を見学し、切り出した円盤の香りや肌触りを感じる 森林のはたらきや林業について学び、興味・関心を抱く 3～4年生は、丸太切りとコースター作りを楽しむ、 5～6年生は、ツルや木の実を使ったリース作りを楽しむ
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林と人々の暮らし・森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



木の香りや肌触りを確かめている様子



リースづくりの様子



丸太切りの様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 丸太をノコギリで切るのが思いのほか力が必要で大変な作業でした。慣れるまでは時間が掛かりましたが、森のせんせいやサポートしてくれる方にコツを聞くことで、力の入れ方がわかり、スムーズに切ることができました。（3～4年生） 巻いたツルに集めてもらった木の実や枝を飾り付けて、自分だけの作品を作ることができました。ツルを巻く作業が大変な児童もいましたが、サポートを受けてうまく巻くことができたので、嬉しそうな様子でした。木工用ボンドではすぐには接着しませんでした。針金などで固定するサポートをしてもらったことで、思い思いの作品を作ることができました。（5～6年生）
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> チェーンソーでの丸太切りの見学など、普段できない体験ができて大変良かったです。 お話も、クイズを交えた楽しくわかりやすいお話で、子どもたちも楽しく聞くことができました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

27

クッブ^{※5}を体験しよう

伊勢市立小俣小学校 3～5年生



クッブを楽しんでいる様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	校庭及び教室
時間	2時間
対象・人数	小学3年生 113人 小学4年生 116人 小学5年生 99人
講師	森のせんせい6人（三重県クッブ協会）、 伊勢農林水産事務所職員2人
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	06知識・技能を身に付ける（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ）
ねらい	木を使ったゲームを楽しみ、森林や木の大切さを知る
内容	・三重県や地域の森林の様子について学ぶ ・クッブのゲームを楽しみ、木の重みや手ざわり、香りを感じて親しむ ※5クッブとは、スウェーデン生まれのレクスポートで、木のバトン（カストピンナ）を投げて小さな角材（クッブ）を倒す当てゲーム（一般社団法人日本クッブ協会ホームページより抜粋）
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）



三重県や地域の森林の様子について学んでいる様子



尾鷲ヒノキのクッブのピンで木の肌触りや香りを確かめている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・尾鷲ヒノキの手触りや香りを感じながら、楽しくクッブ体験を行っていました。 ・思ったより木が重くて投げるのに苦労していましたが、繰り返すうちに工夫して投げるようになり、積極的に参加できた児童が多かったです。 ・児童からは、「三重県の木が使われていると知り、身近に感じました。」「木を使って遊んだことがなかったので楽しかったです。」「木がいい匂いでした。」「森林を守っていいかないといけないと思いました。」などの感想が聞けました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・尾鷲ヒノキを使うことで遊びの体験だけでなく、三重県の森林や林業について親しみを持つことができよかったです。 ・木の棒を投げるという体験をしたことがない児童がほとんどでしたがゲームを楽しんで活動できていました。 ・チームで声を掛け合いながらゲームを楽しんでいました。 ・木の香りを嗅いで楽しんでいる児童が多かったです。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例
28

森や木に関して理解をし、木にふれ、工作を楽しむ

ひまわり学童クラブ 小学1～6年生



ノコギリで丸太切りをしている様子

実施時期	令和5年8月
実施場所	保育室及び戶外通路
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生 25人
講師	森のせんせい3人（舘俊樹氏、向田恵子氏、山根由士氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける（ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ）
ねらい	森林や木の役割を知り、木にふれ木を使うことの意義について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の森林のようすや森のはたらき、木を使うことの意義をクイズ形式で学ぶ 3つの遊びや物作りの体験をする <ol style="list-style-type: none"> 木のおもちゃで遊び、木の香りや肌触りを感じ、親しむ ノコギリで丸太を切る体験をする 丸太から切り出した円盤でコースターやオブジェづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



コースターやオブジェを作っている様子



木のおもちゃを使って遊んでいる様子



完成した作品

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 初めて見るたくさんの木のおもちゃに興味深々の子どもたちは、次々とあらゆる種類のおもちゃで遊び、大興奮でした。 「もりぼーる」が出されると、子どもたちの目が輝き、触ってみたいり寝転んでみたいり、木の匂いや感触を楽しんでいました。 丸太切り体験では、丸太を抑えながら、友達がノコギリを使っているのを見て、自分の番になるのをワクワクドキドキしながら待っていました。順番が回ってくると、思うように扱えないノコギリに悪戦苦闘しながら、切り取った瞬間の達成感を味わっていました。
学童クラブのコメント	<ul style="list-style-type: none"> 森のせんせいの丁寧な言葉がけで、子どもたちは挑戦してみたり工夫したり、伸び伸びと色々な体験に取り組むことができました。 木の匂いや感触を確かめたり、丸太切り体験など貴重な体験ができました。 世界に一つしかない素敵なオブジェに感動しました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

29

身近な樹木から学ぼう

～ 身近な樹木と私たちのくらしのつながり ～

津市立栗真小学校国児分校・一身田中学校国児分校 小学6年生、中学1～3年生



敷地に生える樹木について学んでいる様子

実施時期	令和6年8月
実施場所	多目的室
時間	3時限
対象・人数	小学6年生及び中学1～3年生 16人
講師	森のせんせい1人（出口省吾氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける (03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	敷地内に生える木の魅力を知り、その木を使ったスプーンづくりの体験を通して、木と私たちの生活との関わりについて考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に生えるクスノキ、クロマツ、アカマツの特徴や他の生き物との関わり、私たちの生活との関わりについて学ぶ 敷地内に生えるクスノキでスプーン作りをする体験を楽しみ、木の香りやぬくもりを感じ、木の利用と私たちの生活との関わりについて考える
学習指導要領との関連	森林と人々のくらし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、植物の発芽・成長・結実（小学5年生理科）、食物連鎖（小学6年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、持続可能な社会の構築（中学校技術・家庭）、自然を大切にする意義（中学校道徳）



スプーンづくりで作った作品



森林と私たちの生活とのつながりについて学んでいる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 木でいろいろな物が作れることにびっくりしました。 木で物を作るっておもしろいと思いました。 マツの木には、防風などいろいろな働きがあり、僕もマツを植えたくくなりました。 地球温暖化が話題になっている中で、木などを増やすことで、二酸化炭素を吸ってくれるという働きがあるので、校内の木はそのはたらきがあるのだから良いと思いました。 校内に生えているクスノキやマツの木は人にとって良い役割があったのだと思いました。木を伐った後は、作れるものがないかを考えて、できるようにしたいと思いました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活する学園内の木に興味関心が向けられるようになったと思います。学園内の木を使って授業を考えていただいたことがすごくよかったです。 森や木の話だけでは、子どもたちは知識の素通りだったかもしれませんが、敷地内の木で自分のスプーンを作ることで、より今の環境について思いを巡らせたのではないかと思います。 社会科、地理的分野、日本の農林水産業や中部、近畿地方での自然環境などの授業に活用していきたい。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

30

『森』を知ろう

～ マイバターナイフ作り ～

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 中学部 3年生



バターナイフづくりで作った作品

実施時期	令和5年6月
実施場所	教室
時間	3時限
対象・人数	中学3年生 10人
講師	森のせんせい1人（芝野利夫氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく)
ねらい	木の多様性や、森のはたらきを知る
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の役割について学び、森は動物のすみかになることや水をたくわえるはたらきがあることを知る ・ 丸太や木の板にふれ、香りやぬくもりを感じ、それぞれの樹種名やその特徴を知る ・ バターナイフづくりの体験を楽しみ、木の柔らかさや肌触りを感じ、親しみを持つ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、共通点と相違点（中学校理科）、自然を大切にする意義（中学校道徳）



森の役割について学んでいる様子



木の様子を観察している様子



バターナイフ作りをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木の種類によって、触った感じや色などが違うことがわかりました。 ・ 出来上がったバターナイフを並べてみると、みんな違う形や色で自分だけのものが作れてよかったです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森や木をより身近に感じとったようでした。 ・ 生徒たちは、自分で作る楽しさを体験することができました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

31

2023年度 お楽し森の学校

伊賀びよクエの森（三重県上野森林公園） 小学3～6年生



最終日の集合写真

実施時期	令和5年7月～11月
実施場所	伊賀びよクエの森
時間	6時間30分×5回
対象・人数	小学3～6年生 12人
講師	三重県上野森林公園職員
備考	三重県上野森林公園主催事業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく)
ねらい	森での“楽しいこと”実現のための、知識・技能を身に付ける
内容	1日目：森の中を探索し、スタッフが考えた“楽しいこと”を体験し、森の活動を楽しむ 2日目：自分の“楽しいこと”実現に必要な材料や道具の使い方を学ぶ 3～5日目：自分たちの考えた“楽しいこと”（ツリーデッキづくり、秘密防衛基地づくり、一人で作る）の活動に取り組み、夢実現に向けて楽しみ、工夫する
学習指導要領との関連	創作活動（小学4～6年生図画工作） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産・森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、自然の偉大さ・命のつながり（小学5～6年生道徳）



計画を立てている様子



秘密防衛基地を作っている様子



できあがったツリーデッキでお弁当を食べる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> どの子どもも自分がこれまで体験したことよりすごいと思える目標を見つけて楽しみながら挑戦していく様子が見られました。 大人から指示されることなく、子どもたちが自分の夢実現に向かって主体的に森で活動していく頼もしい姿が見られました。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 大人からの指示を待つプログラムではなく、子どもが主体的に動いていること、大人はサポートに徹していることが素晴らしいなと思いました。 生き生きとしている。先生方が暖かく息子を見守ってくださるので、息子自身が自分らしく安心して過ごせていると思いました。 それぞれの子が自分のやりたいことをやりたいように出来ている様子がわかりました。屋外でそういう機会がなかなかないので良いと思いました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

32

親子で「夏休み木工体験」をやってみよう！

～ 丸太切り体験から林業の仕事を考える ～

白山公民館講座 小学生とその保護者



親子で丸太切りに取組む様子

実施時期	令和6年8月
実施場所	三重県林業研究所 みえ森林・林業アカデミー棟
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生8人と その保護者6人
講師	森のせんせい1人（柳田国男氏） 県林業普及指導員1人
備考	白山公民館講座

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける)
ねらい	緑の循環と森のはたらきの関係について知る
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒノキと地域の文化やくらしとの関わりについて学ぶ ・丸太切り体験・コースター作りを通じて、手鋸の使い方を学び、木の香りや肌触りを知る ・アカデミー棟に使われている木から、「緑の循環」について学ぶ ・人工林は、人の手で適切に手入れをすることでそのはたらきが保たれていることを知る
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 触れる・遊ぶ（幼児）、面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、木材需要と木材輸入・森林と人々のくらし・森林資源のはたらき・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々のくらし（小学生総合的な学習の時間）

取組の内容

丸太切りに使うヒノキの紹介

はじまり

ヒノキは
尊い木
神社・仏閣に
使われてきた。

知る



電熱ペンやマジックで絵付け

木のいい
香りがする。

体験する



休憩

手鋸を使った丸太切り

体験する



思った以上に
力がある！

切りだした円盤で
コースターを
作るよ！

考える

ヒノキが山に
生えている様子を想像する



ヒノキって
どんなふうに
生えているのかな？

丸太切りした木の年輪を数える



この木は
何歳かな？

知る

知る

アカデミー棟に使われている木

このアカデミー棟には、
どのくらいの種類の木が使われていると思う？



アカデミー棟には
何種類の木が使われて
いるんだろう？

木材になる木を育てる仕事と
「緑の循環」

「緑の循環」を
回していくことが
大切なんだ！

知る



木材になる木を
育てるには、
いろいろな仕事がある。

森を手入れする
人がいなくなったら
どうなるだろう？

森の手入れの必要性



土砂災害が
増えるのかな～？

知る

おしまい

知る

人が植えた木（人工林）は、
人が手入れをしないといけない



人が植えた
木（人工林）は
人が手入れをしないと
いけない。

準備物	手鋸、サンドペーパー、丸太切り台、丸太、マジック、電熱ペン、ヒノキとスギの枝葉、いろんな樹種の木材の標本ブロック
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 木の香りはすごく癒されるということに感動した。 スギやヒノキのことがくわしく分かった。 丸太を伐って、ペーパーできれいにし、絵をつけたりしたことが楽しかった。 もっと森を大切にしようと思った。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 小さなコースターをつくる過程で、木の性質をたくさん知ることができ、大変勉強になりました。 子どもたちにとっては、初めて触る道具もあり、うれしかったようでした。 木に囲まれた生活をとり入れたいと思いました。 森や木と日常生活との関わりが、とても重要なことがわかりました。

07 科学的に考える

- ・ 実験や観察、調べ学習の結果と関連付けて森林・林業・木材についての理解を深める
- ・ 実験や観察、調べ学習の結果を分析し、その特徴や規則性を見いだす
- ・ 観察に基づき共通点や相違点を見だし、動植物が分類できることを見いだす

取組事例

33

苗木の実験から森のはたらきを考える

～ 森林の「土を支えるはたらき」を知ろう ～

三重県林業研究所 親子



実験に使うスギの苗木と道具

実施時期	令和5年11月
実施場所	三重県林業研究所
時間	30分程度
対象・人数	親子 26人
講師	県林業普及指導員 1人
備考	三重県林業研究所一般公開

めざす姿	07科学的に考える (03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	実験を通して、森林の「土を支えるはたらき」について考える
内容	みえ森林ワークブック小学6年生理科 調べ5による学習 ・ 土を固めた塊と、植物が生えた土の塊に水をかけたときのくずれ方を調べる ・ 実験の結果（土の形がくずれるまで水の量、水をかけたときの土の様子）を記録する ・ 実験の結果からわかる森のはたらきについて考える
学習指導要領との関連	自然災害と森林整備（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、比較する（小学3年生理科）、自然環境と地場産業・飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）、水的作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



水をかけて土の崩れ方を調べる実験をしている様子



実験の結果から森のはたらきについて考えている様子

準備物	じょうろ、スギのポット苗木、樹木の土と同じ土が入ったポット、洗面器、ビーカー
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ スギの苗木の方は、土がぜんぜんくずれなくてびっくりした。 ・ このスギの木が、43年たつと隣に生えていたスギの木くらい大きくなるのに驚いた。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんなにハッキリと違いが出るとは思わなかった。

07 科学的に考える

取組事例

34

きれいな水、おいしい水のヒミツを探る

松阪市立宮前小学校 3～4年生



「雨が降ったらどうなる？」実験の予測をしている様子

実施時期	令和6年10月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学3～4年生 19人
講師	森のせんせい2人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	07科学的に考える （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	飯高地域のきれいでおいしい水と森林との関係について科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林のはたらきと森林の豊かさの関係を知り、山間部または下流部の様々な活動が森林の働きと関係していることに想像力をはたらかせる ・「雨が降ったらどうなる？」実験により、土を支える、水をたくわえる、水をきれいにする等、森林のさまざまな働きについて実感を伴いながら学ぶ ・絵本を使って飯高地域に供給される水と上流の森林とどんな関係があるのかに興味を持ち、考える ・「葉っぱじゃんけん」などで、樹木の枝葉に触れ、香りや感触などを感じる体験を楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）

取組の内容

はじめり

地元の山の水がおいしい理由を考える

考える

体験する

山の土（腐葉土）を観察する



根っこがからまっている

ふかふかしている

飯高の水がおいしいのはなぜだろう？



「だけさん」の湧水だからかな？

山の土（腐葉土）と校庭の砂
雨が降った時の様子の違いを予想する

考える

山の土から出る水の色は茶色かな？

水の量は
どうだろう？

「雨が降ったらどうなる？」実験で確かめる

体験する

山の土からの水は透明だ！

校庭の土からの水は茶色だ！



実験結果の解説を聞いたあとに
ふりかえり実験で再確認

山の土からは
養分を含んだ透明な
水が出てくる！

知る

休憩



森がつくる
腐葉土が
おいしい水を作
るんだ！

絵本「かわ」を使って上流の森から下流の海までが
川でつながっている様子を知る



知る

私たちの
住む地域は
この辺りかな？

奥山の森と
私たちの暮らす地域と
下流の海が川で
つながっているね。

葉っぱじゃんけんを楽しむ

お気に入りの
葉っぱを3枚
選んでね。

体験する



葉っぱじゃんけん
大きい葉っぱ！

ふりかえり

準備物	「雨が降ったらどうなる？」実験キット、山の土（腐葉土）、校庭などの砂、スギ・ヒノキの切りだし、いろんな樹種の葉っぱ、絵本「かわ」、説明用のシート、書き込み用シート（予測・結果）他
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> • 本当にミズメからシップのにおいがして驚きました。（3年生） • 葉っぱに匂いがついていて、すごいいなと思いました。（3年生） • 実験が楽しかったです。あんなに（腐葉土を通った）水が透明だと初めて知りました。（3年生） • 実験結果が、予想と逆で驚いた。（4年生） • 実験で、水がどんな色になるか考えるのが楽しかったです。（4年生） • 森の土が水をきれいにしてくれることに驚いた。（4年生） • 森の土がふわふわでおどろいた。（4年生） • 葉っぱの種類がたくさんあって感動しました。（4年生） • 葉っぱじゃんけんがおもしろかった。（4年生） • 飯高の水がきれいでおいしいのは、自然がいっぱいあって、山がきれいだからだと思った。（3年生） • 飯高の水がきれいでおいしいのは、ちゃんと森をきれいにしているからだと思った。（4年生）
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の特産物と飯高の自然とのつながりについて、社会の学習とつなげて教えていただき、子どもたちも学習が深まるとともに、飯高の自然のすばらしさにも気付ける子がいました。（3年担任） • 水の学習をしていますが、飯高のきれいな水がふかふかの土のおかげだと思っている子はいなかったので、そこに気づけたことで、また浄水場の見学に行く時にもいろいろな視点から見学できると思います。（4年担任）

07 科学的に考える

取組事例

35

みいとまい

御糸米のおいしさのヒミツは森林にある？

～ 豊かでいきいきとした森林を守るためにできること ～

かみみいと

明和町立上御糸小学校 5年生



実施時期	令和6年9月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 33人
講師	森のせんせい3人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	07科学的に考える （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	おいしい飲み水と森林との関係を科学的に理解し、豊かな森林を守るために私たちにできることを考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高地域で林業に携わる人から、林業の仕事や課題を知る ・「雨が降ったらどうなる？」実験から、土を支える、水をたくわえる、水をきれいにする等の森のはたらきを実感しながら学び、平野部の米作りなどの農業や暮らしと、上流の森林の関心に興味を持ち、その森を守るために私たちにできることを考えるきっかけとする ・スギやヒノキに触れ、香りや感触を感じる ・おいしい御糸米を育てるために必要な水を供給する豊かでいきいきとした森林を守るため、木材利用の大切さを知り、私たち一人ひとりができることを考える
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）

取組の内容

みいとまい

おいしい御糸米と森林の関係を知る

知る

はじまり

山の土（腐葉土）を観察する

体験する



山のおいがする！

重なってる

根っこがからまっている

『雨が降ったらどうなる？』実験で水や土の様子を確認

考える

山の土と砂
雨が降った時の様子の違いを予想

御糸米がおいしいのはなぜだろう？

水がいいから？

水は森からくるから森にヒミツがあるのかなあ？

実験結果の要因を考える



山の土からの水はどうして透明なんだろう？

知る

森がつくる腐葉土が必要なんだ！

『雨が降ったらどうなる？』実験で水や土の様子を確認

体験する



顕微鏡で見てみたい

山の土からの水は飲めそうなくらい透明！

知る

林業家から林業の話を聞く

種から苗木を育てています。



チェーンソー以外にもいろんな道具を使います。

ふりかえり実験

知る



養分をふくんだ森の水が御糸米を育てている！

なんでヘルメットの色はオレンジなの？

森のせんせいに質問

考える



木が自分の方に倒れることはないの？

木を切るのにどのくらい時間がかかる？

体験する

ヒノキの葉と年輪を観察



年輪は何本あるかな？

いいにおい！

ふりかえり

準備物	「雨が降ったらどうなる？」実験キット、山の土（腐葉土）、校庭などの砂、スギ・ヒノキの円盤、いろんな樹種の葉っぱ、説明用のシート、書き込み用シート（予測・結果）、林業資材（チェーンソー、ヘルメット、防護服）他
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 林業をする人は木が倒れる方向がわかるし、チェーンソーとかヘルメットとか格好いいと思った。 木の伐り方や道具の色の意味の説明などすごくわかりやすかった。 チェーンソーを見たことがなかったので見れてうれしかった。 図工室に入った時「あ、とても楽しそう」と一目でわかりました。葉や植物、木など触って、森に行った気持ちになりました。 実験が楽しかったし、田んぼの水がきれいな意味がわかりました。 一番驚いたことは木には年齢があることです。木にも年齢があるとはぜんぜん知らなかったです。 土も生きているということを知りました。森林についてもっと知りたいと思いました。 最初は不安でしたけど、とても楽しかったです。もしかしたら林業に就職するかも。 すごく興味深かったのは林業の仕事です。木を育てるにそんなに時間がかかることを始めてしりました。 天狗がもってる葉っぱとか、チクチクする葉っぱとか、不思議だなと思った。 家を建てたりするときその木を使おうと思いました。 実験で山の土からの水が透明だったけど、なんで透明なのかもっと知りたいと思いました。 森林はとても重要な役割をしていることを知って、木をもっと大切にしようと思いました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 休みに山に行きたいという子が増えました。今回の学習を、社会の「林業」、理科の「流れる水のはたらき」の単元や、総合学習の「SDG sの環境学習」で活用したいです。

07 科学的に考える

取組事例

36

知れば知るほどおもしろい！

～ 森林のはたらきとわたしたちの暮らし ～

おかわち
松阪市立大河内小学校 5年生



実施時期	令和6年9月
実施場所	ランチルーム
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 13人
講師	森のせんせい2人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによるみえ森林教育出前授業

めざす姿	07科学的に考える （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	自分たちの暮らしや地域の産業と、森林のはたらきとの関係について科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高地域で林業に携わる「森のせんせい」から森の話聞く ・「雨が降ったらどうなる？」実験を通じて、森の水をたくわえるはたらきや、水をきれいにするはたらき、土をささえるはたらきを科学的に考える ・様々な樹木とのふれあいを通じて、森林の様々なはたらきについて実感を伴いながら知る ・私たちの暮らしが、上流の森林とどんな関係があるのかに興味・関心を持ち、考える
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）

取組の内容

山の土を観察

はじまり

航空写真を使って、学校のそばを流れる川の様子を確認

知る

川の水はどこから来てどこへ行くんだろう？

山と海が川でつながっている!!

『雨が降ったらどうなる？』実験で水や土の様子を確認

体験する

山の土からの水は透明だ！

砂からの水は茶色！

考える

水の量は？

体験する

ふかふか

カブトムシのにおいがする！

根っこがからまっている。

山の土と砂
雨が降った時の様子の違いを予想する

出てくる水の色は？

実験結果の要因を考える

知る



山の土からの水が透明なのはなぜ?

森がつくる腐葉土にヒミツがあるんだ!

ふりかえり実験



知る

大雨のあとの川の水の色はどっちかな?

いろんな木のはっぱで「はっぱじゃんけん!」



体験する

大きさも、形もそれぞれ違うね!

体験する

いろんな木の枝を鳴らす



木によって音色がちがう!

キーホルダーの材料を選ぶ



体験する

日を改めて自分で選んだ枝でキーホルダー作りをするよ。

考える

知らなかったことがたくさん知れてよかった。

ふりかえり

雨が降ったあとの水の色や流れる量がわかってよかった。



森と人が関わり合うことが大切。

※ 写真提供 永作佳紀氏

準備物	「雨が降ったらどうなる?」実験キット、山の土(腐葉土)、校庭などの砂、スギ・ヒノキの切りだし、いろんな樹種の葉っぱ、いろんな樹種の幹・枝、キーホルダーの材料(枝)、説明用のシート、書き込み用シート(予測・結果)他
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風や大雨のときに、きれいだった水が汚くなるという実験におどろきました。仕組みがわかってよかったです。 ・ 実験で、山の土の中から少しきれいな水が出てくると思っていたけど、思った以上にとうめいな水が出てきたので、びっくりしました。 ・ 山の土のしくみに心を動かされました。実験をしないと普段の生活ではわからないことなのでおどろきました。 ・ 実験や葉っぱじゃんけんがおもしろかった。 ・ 木の音が聞けたり、木に触れてよかったです。 ・ 山があるからこそ、自然がいっぱいあるんだと思いました。 ・ 山の土があるから、きれいな水が使えるんだと思いました。 ・ 山の水で野菜が育っているんだと思いました。 ・ 森林の土で、わたしたちはきれいな水を使えていることがすごく大切だと思いました。 ・ 山からの水がおいしい食べ物につながったり、植物や生物の栄養になっていると思いました。 ・ 山がないと生活に困ったりすると思いました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月末に小学校の周辺で大雨による被害がありましたが、その時の経験が重なり、森林のはたらきをより身近なものに感じ取ることができました。 ・ 総合学習や社会科の学習で活用したり、学習発表会でこの内容を取り入れたいと考えています。 ・ 専門的な知識を持った方に授業をしていただき、具体物を用いて学ぶことで、子どもたちの理解を深められたと感じたので、今後もこのような森林教育の機会をいただきたい。

07 科学的に考える

取組事例

37

田んぼの水はどこから？

～ 森林のはたらきとわたしたちの暮らし ～

明和町立上御糸小学校 5年生



「雨が降ったらどうなる？」実験の様子

実施時期	令和5年9月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 44人
講師	森のせんせい2人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによるみえ森林教育出前授業

めざす姿	07 科学的に考える （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	おいしいお米と飯高の森の関係を実験を通して科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高地域で林業に携わる人の話を聞き、山のはたらきについて学び、森林に興味・関心をもつ ・稲作の学習で、農家の方から「上御糸地区の米がおいしいのは、飯高の森が豊かだから」と言われたことについて、実験を通して科学的に考える ・木の葉っぱなどにふれ、香りや感触などを感じ、楽しむ ・木の小物作りを通して、様々な種類の木があることを知り、木に親しみや愛着をもつ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



森の土を観察している様子



森林のはたらきを実験で確かめている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯高町へ温泉に入りについて、山も見て来よう」「山の土って触ったことなかった」「木の香りって好きやな」など、木や森に興味を持った児童がたくさんいました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高で林業を営んでいらっしゃる方の声を直接聞くことができ、大変勉強になりました。飯高の山の土を使った実験は、体験的に学習することができ、大変貴重な経験になりました。

07 科学的に考える

取組事例

38

アカデミー棟から学ぶ森林のはたらき

～ 豊かな森林づくりの大切さと、森づくりに携わる仕事 ～

津市立家城小学校 5年生



実施時期	令和6年9月
実施場所	三重県林業研究所 みえ森林・林業アカデミー棟
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 7人
講師	県林業普及指導員1人
備考	普及活動の一環として実施

めざす姿	07科学的に考える （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	木材を生産する人工林の整備の必要性を科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミー棟に使われている木を調べる活動を通して、木の香りやぬくもりを感じ、違いを知る ・建築材には、針葉樹が適していて、三重県は人工林が多いことを知る ・実験を通して、森林の土を支えるはたらきや、水をきれいにするはたらきについて科学的に考える ・人工林の整備を進め、豊かな森林を守るために、私たちに何ができるのかを考える
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、比較する（小学3年生理科）、自然環境と地場産業・飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）

取組の内容



森の手入れの大切さ

知る



人工林は人の手入れが必要なんだね。

ポット苗木を使った実験

体験する



大雨のあとの川の水の色はどっちかな？

知る

実験のふりかえり



根っこがからまって、土が崩れるのを防いでいたね。

苗木の方の水は透明だったね。

ふりかえり

豊かな森林を育てるには？

考える

高く売れる木を育てる。



林業体験をして林業をする人を増やす。

考える

質問タイム



木は何年くらい育てると、使えるようになるの？

どうしてアカデミー棟を作ったの？

木の成長を早くするにはどうしたらいいの？

準備物	じょうろ、スギのポット苗木、樹木の土と同じ土が入ったポット、洗面器、ビーカー、木材の標本、アカデミー棟に使われている取っ手の木
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 実験をしてみて、木があると土が崩れないことが分かりました。だから、木がないところは山崩れが起きたりして、大事故になったり環境が悪くなるから、木を大切にしていきたいです。 アカデミー棟に行って、木の種類がたくさんあることが分かりました。私はぜんぜん木の名前が分からなかったの、ウォークラリーで知れてよかったです。 森林の整備をしている人はすごいと思いました。でも、林業の仕事をしている人が足りないということを知りませんでした。僕は木を使って生活をしているから、自分も手伝えることをできるだけしたいです。 「森林がなくても環境は大丈夫でしょ！」と小さいころ思ったことがありましたが、実験をして土が崩れたり、動物にも影響することにびっくりしました。森林がないと土砂崩れや動物にも影響することを知りました。学んだからこそ、私は森林を大切にしていきます。みんなで森林を大切にすれば、すてきな森林をつくれると思います。 僕は、実験をしてもっと森林を大切にしようと思ったし、木や森が好きになりました。もっと森林のことを知りたいし、もっと森林アカデミーで学んでみたいです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 後日、今回の見学で学んだことをふりかえり、子どもたちが動画を制作しました。

08 地域の課題に目を向ける

- ・森林・林業における地域の課題があることを知る
- ・地域の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

取組事例

39

地域の里山を守る林業

～ 森林整備の大変さと大切さ ～

おかわち
松阪市立大河内小学校 5年生



ヒノキとスギの葉を比較している様子

実施時期	令和6年9月
実施場所	教室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 13人
講師	松阪林業研究グループ3人 県林業普及指導員1人
備考	独自事業

めざす姿	08 地域の課題に目を向ける （ 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける）
ねらい	森林整備の大切さと山の仕事の大変さを知り、地域の里山を守るための課題について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代から現在までの日本の山林の様子や木材利用の変化を学ぶ ・木材生産と合せて、森林のはたらきを発揮させる林業の内容を知る ・大雨の際に地元の川が増水した様子をふりかえり、森林のはたらきについて考える ・スギとヒノキの葉や丸太の輪切りを手に取り、この木が植えられてから60年間の地域の様子を想像する ・林業作業の大変さや、木材の価格について知り、地域の里山の抱える課題について考える
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 比較する（小学3年生理科）、自然環境と地場産業（小学4年生社会）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



森林の話をしている様子



年輪を観察している様子

準備物	スギとヒノキの枝葉、ヒノキの輪切り、副読本、みえ森林ワークブック（小学5年生社会科）
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くだけでなく、クイズやゲーム的な内容、まわりの人と相談して考える内容もあり、楽しく盛り上がりました。 ・ヒノキの輪切りの香りがよく、子どもたちも喜んでいました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・林業についての話や森の雑学について、大人も知らないような興味深い話が聞けて面白かったです。 ・地元の方に講師をしていただくと、子どもたちが共感できる内容も多くてよかったです。

08 地域の課題に目を向ける

取組事例

40

SDG s と地元の林業

～ 持続可能な社会づくりのために、地域の林業を学ぼう ～

皇學館中学校 2年生

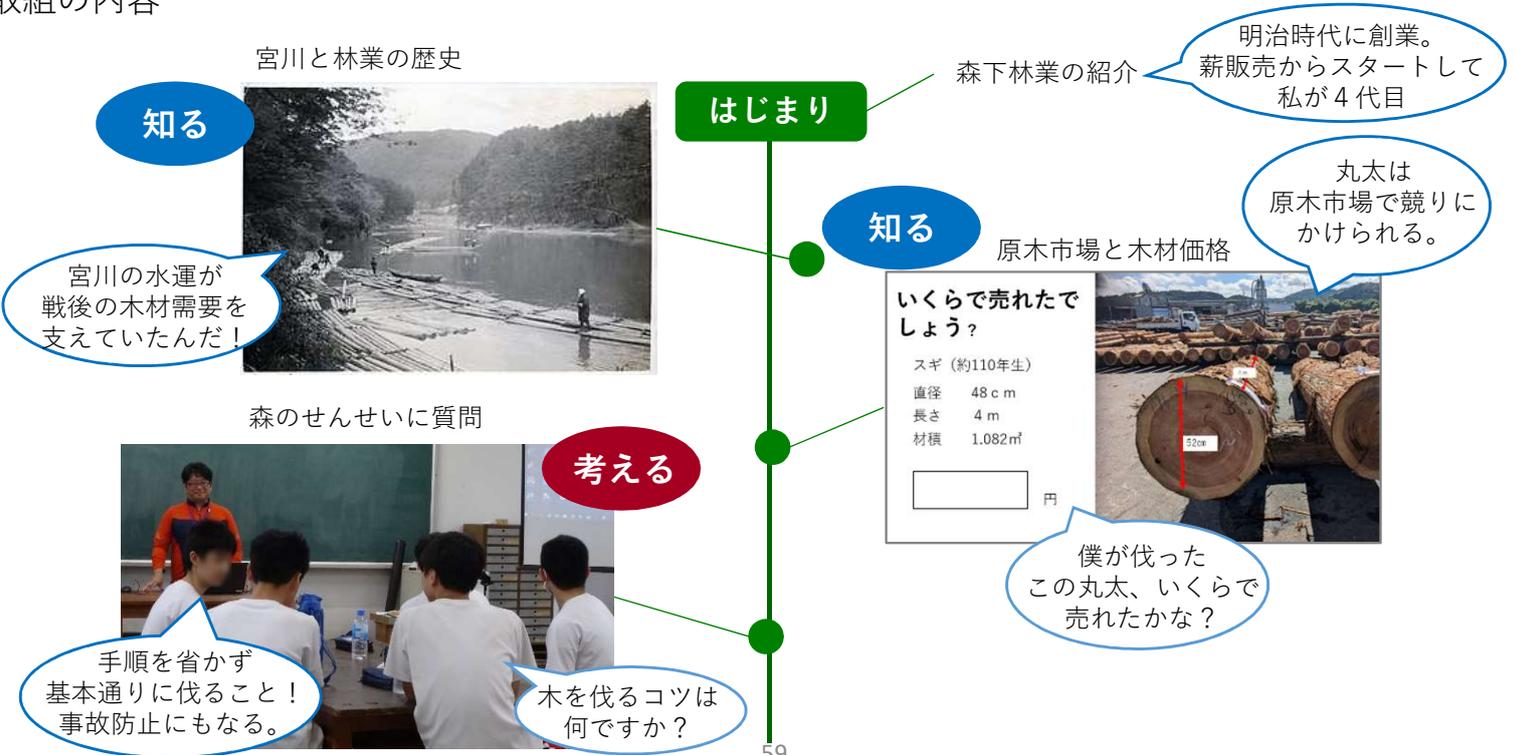


足場丸太加工体験の様子

実施時期	令和6年9月
実施場所	技術室及び屋外スペース
時間	3時限（50分×3）
対象・人数	中学2年生 16人
講師	森のせんせい2人 （有限会社森下林業）
備考	みえ森づくりサポートセンターによるみえ森林教育出前授業

めざす姿	08 地域の課題に目を向ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける）
ねらい	持続可能な森林経営を成り立たせるため、地域の林業にはどのような課題があるのかを考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森下林業の歴史と併せて、地元の林業の歴史と宮川との関係について学ぶ ・林業がどのようにして利益を得ているのかを、原木市場の取引価格を参考に考える ・林業が目指す最終目標の森の姿を参考に、持続可能な社会のために私たちにできることを考える ・足場丸太の生産の需要について学ぶ ・足場丸太加工の体験を通して、木の香りや質感を感じるとともに、林業作業の大変さを知る
学習指導要領との関連	森林資源・木材生産（中学校社会科） 森林資源と環境（中学校社会科）、持続可能な社会の構築・消費者の権利と責任・加工技術（中学校技術・家庭）、職場体験（中学校総合的な学習の時間）、社会生活と職業生活の接続（中学校特別活動）

取組の内容



知る

足場丸太についての学習



市場で売る
足場丸太の加工に
今から挑戦するよ！

木の足場丸太で
足場を組んで
清水寺の修復を
している。

休憩

体験する

足場丸太づくり (枝払い)



枝の跡が
残らないように
丁寧に・・・

知る

手鋸の使い方も
教えてもらったよ。

足場丸太づくり (皮剥き)

一気に
剥けると
きもちいい！

体験する



切った枝の跡を
紙やすりで磨いて
凸凹がないように！

体験する

足場丸太づくり (玉切り)



規格の寸法に
伐り揃えて
足場丸太の完成!!

自分たちの
加工した足場丸太
いくらで売れるかな？

ふりかえり

木の皮を剥くという
この時期にしかできない
体験ができてよかった。

考える

始めて丸太を切って
すごく疲れたから
林業をしている人は
すごいと思った。



みなさんが林業を
理解することで木が使われる
機会が増えたらいいと思います。
林業を応援してください！

森林や林業に
興味がなかったけど
興味を持てた。

・この時生徒が加工した足場丸太は、11月に原木市場で競りにかけられ、地元の森林組合に競り落とされました。

準備物	6mのスギの足場材3本、丸太切り台、ノコギリ、紙やすり、へら（皮むき用）、説明用のパネル、軍手、メジャー、材の見本、ブルーシート
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> 使われている木は、ちゃんと手入れされて、出荷されていることがわかった。 木の値段が思っていた以上に安かったため驚きました。 木を使っている物が多く、林業の人たちがいてくれるおかげで、安心した生活ができているんだなと実感した。 このような木によって、家を建てたり、災害から守ってくれたりしてくれるということを知り、木は自分たちの生活を豊かにしてくれるということがわかった。 林業をしてくださっている方々に感謝の気持ちを持ち、木を大事にしたい。 必要な木以外は伐採しないようにしたい。 木は、多くの場所に使われているということがわかり、木をもっと大切にしていこうと思いました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> バーチャルなものが多い中、今日は木に触れて加工するというリアルな体験を通じて、木のあたたかさを感じる貴重な経験ができたと思う。 生徒たちは、本物の木にふれる機会が少ない様子なので、様々なものに木が使われていることに関心をもった生徒が多かった。 生木が湿っていること、木の値段のことなど、生徒が積極的に話をしてくれました。

09 地球の課題に目を向ける

- ・森林・林業における地球規模の課題があることを知る
- ・地球規模の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

取組事例

41

木の二酸化炭素固定量を調べよう！

～ 森林の二酸化炭素をたくわえるはたらきの重要性 ～

三重県林業研究所 親子



二酸化炭素の固定量を調べる方法を聞いている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	三重県林業研究所
時間	30分程度
対象・人数	親子
講師	県林業研究所職員1人
備考	三重県林業研究所一般公開

めざす姿	09地球の課題に目を向ける (03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 07 科学的に考える、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	森林の二酸化炭素をたくわえるはたらきを高めるためのアイデアを考える
内容	みえ森林ワークブック小学6年生理科 調べ2による学習 ・木の太さを測って、その木が蓄えている二酸化炭素の量を調べる ・1年に1家族が排出する二酸化炭素を固定するには、何本の木が必要かを計算して調べる ・木がたくさん二酸化炭素を固定するためには、どうしたらいいのかを考える
学習指導要領との関連	地球規模の課題（小学6年生社会科） 森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、地球温暖化・日本の役割（小学6年生社会科）、植物における酸素と二酸化炭素の出入り（小学6年生理科）、資源の持続的な利活用（小学5～6年生技術・家庭）、森林資源と環境（中学校社会科）、二酸化炭素排出量の変化・光合成（中学校理科）



木の太さを測っている様子

みえ森林ワークブックの内容



固定されている二酸化炭素量を計算している様子

準備物	みえ森林ワークブック、メジャー、電卓、筆記用具
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森をちゃんと手入れしないといけないと思った。 ・木に自分たちが出した二酸化炭素がたくさん固定されていることがわかった。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の子には難しい内容だったけど、1本の木にどのくらい二酸化炭素が固定されていて、1年間の排出量と比較できてよかった。

10 課題解決への参画

- ・地域や地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて検討する
- ・課題解決に向けた行動やはたらきかけについて考え、仲間と議論する
- ・課題解決策について整理し、仲間と共有する

取組事例

42

R6 ジュニアフォレスター育成講座

～ 森林の価値を考えよう！ ～

三重県林業研究所 小学3～6年生



2日目の小さな机づくりで制作した机を抱えて記念撮影

実施時期	令和6年12月
実施場所	四日市市少年自然の家
時間	3日間
対象・人数	小学3～6年生 8人
講師	遊び心 岡野ころる氏 国立曽爾青少年自然の家 菱川裕輝氏 自然観察指導員 山田翔大氏、小池智氏 Brook 坂丈哉氏 森のせんせい養成講座受講者7人 県林業普及指導員6人
備考	県主催講座

めざす姿	10 課題解決への参画（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する
内容	<p>【1日目】・身近な森林の姿や地域の林業活動、わたしたちの生活との関わり合いについて学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山の観察を通じて、様々な植物や動物が関わり合いながら生きていることを知る ・里山保全活動を通じて、里山整備に使う道具の使い方や里山整備の必要性を学ぶ ・「元気な森はどんな森？」について考える <p>【2日目】・サーバイゲームを通して、森林整備の大切さや、製材技術により木に付加価値を付けられることを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのくらす地域で、世代を超えて大切に育てられた木を使うことの意義を知り、そうやって育てられた木を使った木工体験（小さな机づくり）をする ・「木を伐ることはいいこと？悪いこと？」について考える <p>【3日目】・炊き出しの体験から、長年、木を燃料として活用してきた人の生活と森との関係について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「元気な森のために何ができる？」について考える
学習指導要領との関連	<p>探究的な学習（小学生総合的な学習の時間）</p> <p>楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、植物の発芽・成長・結実（小学5年生理科）、森林資源のはたらき・森林を保全する仕事（林業）・森林と人々のくらし・木材需要と木材輸入・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、食物連鎖（小学6年生理科）、資源の持続的な利活用・消費生活と環境（小学5～6年生技術・家庭）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、加工技術（中学校技術・家庭）</p>

取組の内容

クイズを通して三重の森林や木について学んでいる様子



知る

1日目

倒木の中で越冬する虫を観察している様子



体験する

森林整備活動で雑木を伐っている様子

体験する



元気な森はどんな森なのかを考えている様子

考える



2日目

セーザイゲームで
木取りの体験をしている様子

体験する



木工体験で机の作り方を聞いている様子

体験する



「木を伐ることはいいこと？」について
話し合ったことを発表している様子

考える



3日目

小刀を使って箸を作っている様子

体験する



マッチを使った焚き付けの体験をしている様子

体験する



「元気な森のために何ができる？」について
話し合ったことを発表している様子

考える



おしまい

子どもの反応

- 暗い森がほとんどということ色々な人に行って、知ってもらいたい。
- 大きくなったらきこりになる。
- 里山保全活動に参加したい。
- 元気な森のために、森の感謝して木を使おうと思った。
- 元気な森のために、苗を1本植えたい。
- 元気な森のために木を伐りすぎないようにするし、切ったら植えるようにする。
- 森のためにゴミを捨てちゃいけないと思った。
- 元気な森は、動物が元気にいきている森。植物がよく育っている森。
- もっとこの講座やイベントに参加して、森のことを勉強して、他の人に教えられるようになりたい。

10 課題解決への参画

取組事例

43

R5 ジュニアフォレスター育成講座

～ 森林の価値を考えよう！ ～

三重県林業研究所 小学4～6年生



森林組合の人から木の伐り方を学んでいる様子

実施時期	令和5年12月～6年1月
実施場所	三重県立熊野少年自然の家
時間	4日間
対象・人数	小学4～6年生 12人
講師	三重県立熊野少年自然の家4人、熊野林星会3人、樹木医1人、三重くまの森林組合3人、森林をフィールドに子ども「生きる力」を育む指導者養成講座受講生10人、県林業普及指導員4人
備考	県主催講座

めざす姿	10 課題解決への参画 （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、07科学的に考える、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する
内容	<p>【1日目】・クイズ形式で三重の森林・林業の姿を知る ・地元の製材所の仕事や、木の使い方について学ぶ ・手鋸で木を伐る体験から林業の大変さを知ると同時に、間伐で林内に光が入ることを体感する ・伐採した木の葉や木の実を利用してリース作りを楽しみ、樹木に親しみをもつ</p> <p>【2日目】・自然観察で森に生きる動植物を知り、森がたくさん生き物のすみかとなっていることを知る ・立木の二酸化炭素の固定量を算出し、森が二酸化炭素をたくわえるはたらきについて学ぶ ・薪割り・焼き付け体験を通して、鉈の使い方や木の熱利用について知る</p> <p>【3日目】・弓矢づくりを通して小刀や手鋸の使い方を学び、自分で作った弓で矢を飛ばす遊びを楽しむ ・焼き付け体験・野外炊事を通して、木の熱利用について考える ・セーザイゲームを通して、森林整備の大切さや、製材技術により木に付加価値が付くことを学ぶ ・製材所が生き残るためのアイデアを考え、発表する</p> <p>【4日目】・椅子づくりの体験を通して、木の香りやぬくもりなどを感じ、木の利用について考える ・一連の体験や学びを通して、森の価値と、その価値を高めるアイデアを考え、発表する</p>
学習指導要領との関連	<p>探究的な学習（小学生総合的な学習の時間） 楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科）、食物連鎖・植物における酸素と二酸化炭素の出入り（小学6年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、資源の持続的な利活用・消費生活と環境（小学5～6年生技術・家庭）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、加工技術（中学校技術・家庭）</p>

取組の内容

伐倒体験の様子



体験する

1日目

リース作りの様子



自然観察の様子

2日目

知る



鉈を使った薪割り体験の様子

体験する



焚き付け体験の様子

体験する



3日目

セーザイゲームの様子



体験する

木工体験（椅子作り）の様子

体験する



4日目

森の価値を高めるアイデアの発表の様子

考える



おしまい

<p>子どもの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 森には生物の豊かな営みがあって、その営みが人にとってもなくてはならない重要なものということがわかりました。 将来、熊野の製材所から木材を買って、木の家を建てたいです。 森の大切さをたくさんの人に伝えなければならないと思いました。 日本で木が売れないなら、外国で売ればいいと思いました。
<p>講師のコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> セーザイゲームで木取りの重要性を学ぶことで、節や木目の出方に興味を持たれたようで、椅子作りの際には、真剣に自分が使う木材を選んでいました。 4日間のプログラムを通じて、子どもたちの関係性が深まり、最後のワークショップでは、森の価値について活発な議論ができました。

10 課題解決への参画

取組事例

44

森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会

～ Think Globally, Act Locally. ～

三重大学教育学部附属中学校 1年生



フィールドワークで森の木を観察している様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	吉田本家山林部森林及び (株)ひのきや研修室
時間	5時間
対象・人数	中学1年生 37人
講師	森のせんせい1人（吉田正木氏）
備考	独自事業

めざす姿	10 課題解決への参画（01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目を向ける）
ねらい	森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs No.15「陸の豊かさを守ろう」に基づき、大紀町の森の様子や林業、生息する動植物について学ぶ ・フィールドワークでハウノキや山椒など身近な植物を探し、その特徴を学ぶ ・世界規模で森林が減っている中、地域や日本の木材の流通や林業の課題を考える ・私たちの生活と密接に関わっている森林・林業に対し、身近なところから何ができるのかを考える
学習指導要領との関連	探究的な学習（中学校総合的な学習の時間） 国際社会の中の日本・森林資源と木材生産・森林資源と環境（中学校社会科）、二酸化炭素排出量の変化・光合成・共通点と相違点（中学校理科）、持続可能な社会の構築（中学校技術・家庭）、自然を大切にする意義（中学校道徳）、自然体験・職場体験（中学校総合的な学習の時間）、社会貢献（特別活動）



森の手入れの必要性について説明を受けている様子



木材の流通や林業についての講義の様子

生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県各地から通う附属中の生徒にとって実際に森の中に入り自然に触れる機会を持つことは貴重な体験になりました。ワークショップでは理科で学習した内容を話す生徒もいたり、見慣れない植物に興味を持って触ったりする生徒がいました。今回の学習を通して、総合学習で学んできたSDGsがより軽視できない問題であることも再確認できました。 ・世界規模での森林伐採が進む中、日本や三重県の森林を守っていくために問題点を自分事として捉え各個人で考えてまとめたことを今後、海の学習に行った生徒たちと共有し、全体で内容を把握して報告していきます。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を保護しながら三重県の林業を支える吉田さんからワークショップと講義をしていただきました。林業とはただ単に木を育てて伐採するというだけでなく、地元の産業を支え、人と動物の共存を考えながら過去から守られてきた大切な自然を保護し、私たちの生活により身近に関わっていることも学ぶことができました。今回の学習を通して“誰一人取り残さない”社会の実現に向けて、自ら考え行動できるよう探究学習を進めていきたいです。

10 課題解決への参画

取組事例

45

三重ジュニアドクター育成塾

～ アントレプレナーシップセミナー 三重の林業・製材業と地域の活性化 ～

三重大学 小学5年生から中学2年生



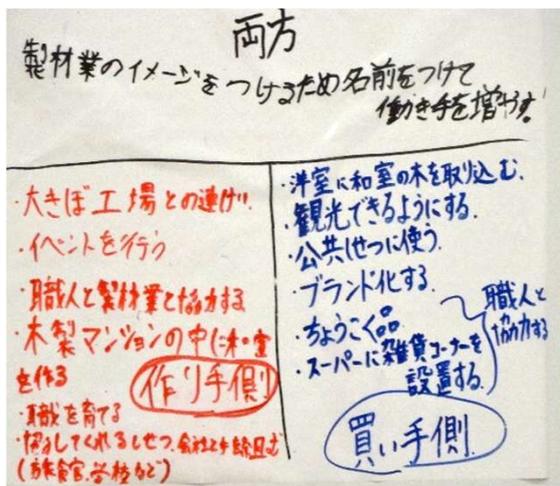
セーザイゲームで原木の競りをしている様子

実施時期	令和6年9月
実施場所	三重県林業研究所 みえ森林・林業アカデミー棟
時間	3時間
対象・人数	小学5年生から中学3年生 36人
講師	(株)nojimoku 野地伸卓氏、杉浦直人氏、その他三重大学関係者
備考	三重大学独自事業

めざす姿	10 課題解決への参画（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける）
ねらい	三重県の林業・木材業を活性化するための新たなアイデアを發明する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・製材材のお仕事と、木製品の活用の変化について知る ・製材品の付加価値を高める意義と、原木の等級と林業活動との関連・課題について学ぶ ・セーザイゲームを通して、原木を競り落とし、製材し、販売する木材流通の仕組みを模擬体験する ・三重県林業・木材産業を活性化するための新たなアイデアを考える
学習指導要領との関連	<p>探究的な学習（総合的な学習の時間）</p> <p>森林資源と木材生産・国際社会の中の日本・森林資源と環境（中学校社会科）、共通点と相違点（中学校理科）、持続可能な社会の構築・加工技術（中学校技術・家庭）、職場体験（中学校総合的な学習の時間）、職業観（中学校特別活動）、持続可能な社会の実現（高校社会科）</p>



セーザイゲームの木取りの様子



参加者が考えた三重県の林業・木材業を活性化するためのアイデア



子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の話は聞いたことがあったが、製材という点から考えたのは初めてだった。 ・普段目にするきれいな木の加工物には林業で木を育てる長い年月と苦勞が詰まっていることを知りました。 ・今まで製材業のことを知らなかったけど、大切に必要の仕事だったんだと思いました。森を大切にしたり、木を使用したものをたくさん使っていきたいです。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は各自の自由研究に取り組むとともに科学技術に関する様々な講座を受けている三重ジュニアドクター育成塾の受講生たちですが、この日は三重県の地域課題にビジネスの視点をもって取り組んでみるという経験をしました。本講座で経験したことが、受講生たちのアントレプレナーシップ—新しいものを生み出す精神—に繋がり、今後の研究やその取り組み方に大いに役立つことを期待しています。

10 課題解決への参画

取組事例

46

高校生を対象とした森林教育

三重県立四日市農芸高等学校 2年生



スマート林業機器の説明をしている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	視聴覚室他
時間	2時限（50分×2）
対象・人数	環境造園科2年生 37人
講師	県林業普及指導員1人
備考	—

めざす姿	10 課題解決への参画 (03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	三重県の森林・林業の姿を知り、森林に関わる活動やビジネスを志す
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林のはたらき（公益的機能や多面的機能）について学ぶ ・過去から現在に至る森林・林業を取り巻く情勢の変化や三重県の森林資源について学ぶ ・林業の現状を踏まえ、林業従事者の推移などの課題があることを知る ・林業の新たなテクノロジー（高性能林業機械やスマート林業技術）について学ぶ ・林業に限らず、森林を幅広く活用したビジネスについて考える
学習指導要領との関連	就業体験活動（高校特別活動） 生活文化と森林環境（高校社会科）、資源とエネルギー問題・持続可能な社会の実現（高校社会科）、生態系と人間生活（高校理科）、持続可能な社会への参画・持続可能なライフスタイル（高校技術・家庭）、ものづくり・生産活動（高校総合的な学習の時間）、社会的・就業的自立（高校特別活動）



江戸時代の森林について説明している様子



講義の様子

生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業への理解が深まりました。 ・森林・林業が将来身近なものになる可能性が高まりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・現場をよく知っている方の話は、生徒にとって森林・林業をより近いものとして感じる良いきっかけとなりました。 ・当校では、これまで林業事業者や林務関係公務員への就職、森林・林業を学ぶ大学への進学希望など、少しずつ取組の成果が表れてきています。

11 行動を起こす

- ・課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- ・モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- ・社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

取組事例

47

R6 企業向け講座

～ SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol.4 ～

三重県林業研究所



FSC認証の森づくりについて速水氏から説明を受けている様子

実施時期	令和6年10月～11月
実施場所	1回目：速水林業所有の森林及び研修室 2回目：ウッドピア松阪
時間	1日目：5時間30分 2日目：7時間 全2日間
対象・人数	企業経営者及び従業員 20人
講師	全体指導：三重大学 青木雅生氏 1日目：速水林業 速水 亨氏 2日目：松阪木材(株) 久保 寛氏、グリーンウッドタクミ協同組合 浦田 理氏、三重県木造住宅協同組合 森下隆生氏
備考	県主催講座

めざす姿	11 行動を起こす （ 03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画）
ねらい	SDG s 時代における企業の森林とのつきあい方を考え、行動を起こす
内容	<p>1日目・森林や林業の課題についてグローバルな視野で学び、国際的な社会問題と森林との関わりについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代々人々が関わってきた林業地の生産性の高さとしさを知るとともに、持続可能な森林経営について学ぶ ・企業の立場から、持続可能な森林資源の利活用や、森林とのつきあい方について理解と関心を深める <p>2日目・原木市場や木材加工工場を視察し、丸太原木が木製品として売買される過程において、どの段階で関わりが持てるかについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材流通や製材業の現状や課題について知り、そのことが森林や社会に及ぼす影響について考える ・森林・林業・木材産業の課題をふまえた森林資源の利活用について、参加企業及び視察先事業者等との意見交換を通して、SDGs時代における企業の森林とのつきあい方について考える

取組の内容

体験する

代々人々が関わってきた林業地を視察している様子



1回目

森林や林業の課題についての講義の様子



知る

2回目

体験する

製品市場の視察の様子



参加企業と視察先の事業体での意見交換の様子



考える

おしまい

原木市場や製材業についての講義の様子

知る



製材工場の視察の様子

体験する



参加者の
反応

- ・ 森林資源の生産方法に地域による違いや特性があることがわかりました。成長性があると感じられる業界であることが印象に残りました。
- ・ 林業や木材産業は若年層の方が多く働いていて、機械化もしているの、必ずしも職人にしかできない難しい世界と言うわけではないことがわかり、認識が変わりました。
- ・ 他の参加企業の取組が非常に参考になりました。
- ・ 参加企業の皆さんが、それぞれ森につながる取組を行っていることが印象的でした。
- ・ 木材を生産して売るだけでは採算が合わないというお話は、前々から聞く機会がありましたが、実際に現場を見せていただき、そこで働いている人に出会い、現場の声を聞くことができたのは、とても貴重な機会だと思いました。
- ・ 公私ともに、手にするものを少しずつ、思いのある方々の木材や加工品などに変えていきたいと考えています。また、林業や木にまつわるストーリーをこれからも少しずつでも発信していきたいと考えています。
- ・ 林業は持続可能な社会にとって必要であるものの、流通単価が低く、なかなか稼ぐのが難しい業界だと感じた。ただ、ブランディングにまだまだ改善の余地があるように感じており、一般人やサプライチェーンの各企業に、もっと林業の良さが分かってもらえるようにできそうだと考えた。
- ・ 植林などのボランティア活動の企画があれば、企業として参加してみたいと思いました。
- ・ 事務所内をリフォームする機会があれば、机や壁等に木材を使うなど可能と思いました。
- ・ 受講する前は林業と言う仕事は、木を育てて伐採するだけというイメージだったのですが、実際は苗を植えても成木になるまで40年間くらいかかり、伐採した後の加工も簡単なものではなかったのが大がかりな仕事だという認識が変わりました。
- ・ 木材の機能性や価格、流通形態について、世間一般の認識は非常に低いように思う。最近CLTなど、新たな木製材料も開発され、木製ビルなども建設が始まっており、時代は「木造」の流れがきているように思う。
- ・ この講座のような活動に理解を示される経営者を増やしていく必要がある。
- ・ 働き方が多様化する中で、森林の中でのワーケーションやミーティングも環境次第で、自社の取組として可能と思われる。
- ・ 他業種の皆さまと共に講座を受講し、自分では普段気づけない新たな視点から林業について考え、学ぶことができました。

11 行動を起こす

取組事例

48

R5 企業向け講座

～ SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol.3 ～

三重県林業研究所



2 回目の講師と参加企業との意見交換の様子

実施時期	令和 5 年 9 月及び11月
実施場所	1 日目：速水林業所有の森林及び 研修室 2 日目：woodjob(株) 林業研究所
時間	1 日目：5 時間30分 2 日目：6 時間 全 2 日間
対象・人数	企業経営者及び従業員12人
講師	全体指導：三重大学 青木雅生氏 1 回目：速水林業 速水 亨氏 2 日目：woodjob(株) 青木雅俊氏、 木村森業(株) 木村寿志氏
備考	県主催講座

めざす姿	11 行動を起こす （ 03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画）
ねらい	SDG s 時代における企業の森林とのつきあいを考え、行動を起こす
内容	<p>1 日目・森林や林業の課題についてグローバルな視野で学び、国際的な社会問題と森林との関わりについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代々人々が関わってきた林業地の生産性の高さとしさを知るとともに、持続可能な森林経営について学ぶ ・ 企業の立場から、持続可能な森林資源の利活用や、森林とのつきあい方について理解と関心を深める。 <p>2 日目・小規模製材所の様子を視察し、丸太がどのような製品に加工されるのかを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三重県林業研究所アカデミー棟の様々な木材の使い方から、木材を有効に利活用する方法を考える。 ・ 地域の森林資源を活用した経営活動をしている林業家や製材業者の講演から、地域の林業や木材産業の現状や課題について知る ・ 講師や参加者間における意見交換を通して、参加企業が三重県の森林資源を活かした活動に取り組むにあたり、疑問に感じていることや課題について、考える



1 回目の速水氏の講義の様子



1 回目の林業地の視察の様子



2 回目の製材所の視察の様子

参加者の
反応

- ・ 三重の森と木の利活用について企業としてどうすべきか考える良い機会となりました。
- ・ 美杉地域の林業従事者や子どもの減少が危機的な状況であることを目のあたりにし、真剣に何ができるのかを考えたいと思いました。
- ・ 週3～5日の雇用形態が印象的でした。働く人のニーズと会社のニーズがうまくマッチしていると思いました。
- ・ 美杉には元気で挑戦心のある若い林業・木材関係の経営者がおり、多様な働き方を受け入れていることが印象的でした。
- ・ 参加者の方にSDG sのご担当の方が多くいらっしゃり、県内企業においてもESG経営に積極的に取り組んでいることが印象的に残りました。

11 行動を起こす

取組事例

49

カブトムシが飛び交う森づくり

～ 産卵場作りと樹液の出る樹木の植林活動 ～

松阪市森林公園



1回目：カブトムシの産卵場づくりの様子

実施時期	1回目：令和5年7月、 2回目：12月
実施場所	松阪市森林公園
時間	2日間（1日間×2回）
対象・人数	子ども～大人 1回目 10人、2回目 24人
講師	森のせんせい2人 （青木 茂氏、末良 学氏）
備考	園内にある自動販売機の売り上げを「自然観察活動基金」として活用

めざす姿	11 行動を起こす （ 03 興味・関心を持つ、 05 変化に気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画）
ねらい	樹木の多様性について学び、カブトムシの集まる環境づくりのためにクヌギの植樹活動をする
内容	【1回目】 ・山には木材として利用する針葉樹のほかに、広葉樹等があり、さまざまな生き物と関わっていることを学ぶ ・原木シイタケの使用後のほだ木を活用して、カブトムシの産卵場づくりに取り組む 【2回目】 ・カブトムシの産卵場にいる幼虫が、将来過ごしやすい森になるよう、樹液が出るクヌギの木を植える
学習指導要領との関連	社会奉仕（小学生特別活動） 四季の変化・遊び・観察・育てる（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、植物の発芽・成長・結実（小学5年生理科）、食物連鎖（小学6年生理科）、自然の偉大さ・命のつながり（小学生道徳）、自然体験・ボランティア活動（総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）、多様性と進化（中学校理科）、自然を大切にする意義（中学校道徳）、生活文化と森林環境（高校社会科）、多様性（生物・生態系）・生態系バランスと人為的攪乱・生態系と人間生活・資源の再利用（高校理科）



2回目：カブトムシの産卵場の幼虫の様子



2回目：クヌギ苗木の植林の様子

参加者の反応	・山には、木材として活用できるヒノキやスギ等の針葉樹、サクラなどの花や紅葉を楽しむ樹木、そしてドングリの実や樹液が出る広葉樹等があることを学んでもらえたようでした。
担当者のコメント	・多様性が重んじられる時代になり、この針葉樹や広葉樹、常緑樹等様々な樹木を育てる活動を通じて、健康で豊かな森づくりへの啓蒙活動に繋げていきたいです。

11 行動を起こす

取組事例

50

いがの木を使った消毒液台制作

～ 上野南小学校への贈り物 ～

三重県立伊賀白鳳高等学校 工芸部



小学校に寄贈した消毒液台

実施時期	令和4年12月～令和5年6月
実施場所	三重県立伊賀白鳳高等学校及び伊賀市立上野南小学校
時間	部活動の時間を活用
対象・人数	工芸部1～3年生 9人
講師	三重県立伊賀白鳳高等学校教員
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した伊賀市事業「森のやすらぎ空間整備事業」

めざす姿	11 行動を起こす （03 興味・関心を持つ、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目を向ける、10 課題解決への参画、13 次世代につなげる）
ねらい	小学校の要望に応じて、地元の木を使った木製品を設計・制作し、小学校へ寄贈する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの小学校が統合して、新しい小学校が開校するにあたり、小学生がほしい物をアンケート調査する ・小学生の要望した消毒液台を設計し、試作品のプレゼンテーションを行う ・地元の木で消毒液台を制作し、小学校へ寄贈する ・小学生へのカンナ削り体験の指導をする
学習指導要領との関連	社会貢献（高校特別活動） 生活文化と森林環境（高校社会科）、資源の再利用（高校理科）、持続可能な社会への参画（高校技術・家庭）、ボランティア活動・ものづくり・生産活動（総合的な学習の時間）



完成した消毒液台を小学生にお披露目している様子

生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・僕の母校である神戸小学校が閉校し、依那古小学校と合併すると聞き、その記念に何か作らせていただけないかなと思い、今回のプロジェクトを提案させていただきました。また、背板には児童の皆さんに絵を描いてもらい、共に素敵な作品を作る事ができました。お披露目させていただいた際に、皆さんにもすごく喜んでもらい、本当にこのプロジェクトをやらせて頂いて本当に良かったと思います。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸部では普段、自分のための作品や家具を制作しています。 ・今回のプロジェクトでは、使う人のことを考え制作するきっかけになりました。小学生が消毒液を使用する際、適正な高さはどのくらいか？小学生の平均身長から割り出して、使いやすい高さを考え、学年ごとに高さを変えて設計・制作しました。また、コロナ後に消毒液を使用しなくなることを想定し、消毒液を置く凹みに蓋をつけ、段差をなくしPCや黒板消しクリーナーを置けるように工夫しました。全体を通して、地元の木の美しさを知ること、共同制作の喜び、プレゼンテーションなど、多くの学びがあり、部員たちが大きく成長することができました。

12 仲間と活動する

・関係者間でよりよい信頼関係を築き、助け合いの下、継続的に活動する

取組事例

51

「AGF®ブレンディ®の森」第39回森づくり活動

～ 企業がすすめる森林保全活動 ～

味の素AGF株式会社



参加者の集合写真

実施時期	令和6年10月
実施場所	AGF®ブレンディ®の森（亀山市）
時間	5時間
対象・人数	約60人
講師	森林施業認定NPO法人「森林の風」
備考	協定期間：平成26年～令和11年まで（第3期目）

めざす姿	12 仲間と活動する（ 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 05 変化に気づく、 06 知識・技術を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす）
ねらい	自社の使用する水の、水源の森の保全活動を体験通して、社員が森林の重要性を理解する
内容	味の素AGF株式会社は、平成26年から企業の森制度を活用した森づくりに取り組んでおり、今回は味の素(株)とSGF鈴鹿(株)が共同で、森林施業認定NPO法人「森林の風」の指導のもと、森づくり活動に取組みました ・社員が協力して、溪流内の流木の除去や人工林の間伐といった、森林保全活動に取り組む ・間伐材の薪でコーヒー豆を焙煎して、コーヒーを味わう ・二人一組で、大鋸を使った間伐材の丸太切り競争を楽しむ



溪流内の流木を取り除いている様子



人工林の間伐の様子



丸太切り競争の様子

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ AGFグループ社員一丸となって、汗を流し森林を綺麗に出来たことで、お互いの絆が深まったことが嬉しかったです。 ・ 森林の保全の為に日々活動されている方々の大変さや有難みを痛感しました。 ・ 実際に樹木や水に触れ、自然の壮大さを感じることできた貴重な経験になりました。 ・ 間伐や溪流内の掃除を体験し、険しい山中で重労働する大変さを実感したと同時に、企業として森づくり活動に取り組むことの大切さに改めて気づかされました。
企業のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当社グループ社員が、森林を守ることの大切さ・大変さを知っていただくと同時に、仲間と活動することで互いの絆を深めるきっかけの一つになればと思います。将来に向けては、三重県内の森林保全及び三重県の更なる活性化を目指して、三重県に企業の森をもつ他企業や地域住民の方々と共同取組ができるようにしたいと考えています。

12 仲間と活動する

取組事例

52

「三重漁民の森」の活動

～ 植樹活動から海の豊かな海を発信する ～

三重県漁業協同組合連合会



参加者による集合写真

実施時期	令和6年3月
実施場所	津市美杉町 君ヶ野ダム周辺
時間	2時間程度
対象・人数	漁業関係者67人
講師	中勢森林組合
備考	平成10年度から23年間継続 三重県緑化推進協会「海・山連携 植樹事業」

めざす姿	12 仲間と活動する（ 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 05 変化に気づく、 06 知識・技術を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす）
ねらい	豊かな海づくりのため、上流部で植樹活動をするとともに、一般の方々にもこの取組の意義を広く発信する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹活動の趣旨を説明し、参加者間で共有する ・ 中勢森林組合から植樹方法の指導を受ける ・ 植樹活動：漁業関係者が自ら山間部に植樹をする森づくりに取り組むことで、豊かな海づくりにつながり、また、一般の方々にもこの取組を広く広報する



植樹活動の様子



植樹活動の様子

主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たち漁業者は、海の恵みを糧に生活をしているので、海の栄養が乏しくなり、魚や貝が育たないと、それが直接生活に響いてくるため、上流部の森林の豊かさは漁業をする方の生活に直結しています。 ・ これまで20年以上、県内外（岐阜県）で年2回の植樹活動を続けていますが、毎回、県内幅広い地域の漁業関係者に継続的に参加していただいています。これも漁業関係者が海の環境に高い関心を持っているからだと思います。 ・ 植樹活動を通して、上流部の森林が豊かになり、海も豊かになることを、広く一般の方々に知っていただくため、今後も継続して活動を続けていきたいです。
----------	---

12 仲間と活動する

取組事例

53

三重の木椅子展 4

～ 木作家が発信する三重の木の魅力 ～

三重の木椅子展実行委員会



出典作家による集合写真

実施時期	令和 6 年 11 月
実施場所	三重県立美術館 県民ギャラリー
時間	4 日間
人数	出展者 30 組 36 人、来場者
備考	2 年に 1 回開催、今回 4 回目

めざす姿	12 仲間と活動する （ 02 親しむ、 03 興味・関心をもつ、 04 違いに気づく、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす）
ねらい	三重の木でできた椅子を通して、生態系のリズムにあった心豊かな生活文化を発信する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出典者募集：三重の木を使った椅子づくりに取組む木作家を募る ・ 展示：三重の木でできた椅子を見て、触れて、座ることで、木の肌触りや木の椅子の良さを体感する場をつくる ・ パネル展示：地元で生える木を切りだし、家具に加工していく様子を紹介したパネルを通して、地元で育った木を使うことで生まれるストーリーや、その木を使うことの意義について発信する ・ トークショー：作家との会話やトークショーを通して、地元で育った木を使う意義や手仕事でできた道具のある生活文化について一緒に考える仲間を増やす



三重の木の椅子の展示の様子



作家によるトークショーの様子

来場者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな展示会がありますが、こんなに作品や作家と向き合える展示会はめずらしいと思います。 ・ 作家さんの作った椅子に座ったりして、ゆっくりと作品を見ることができました。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ この展示会は、プロの木作家だけでなく、アマチュアの作家も出展してもらっているので、会場の雰囲気もアットホームで、楽しみながら開催することができました。 ・ 来場者の滞在時間も比較的長く、作家との会話や来場者同士のネットワークが広がった展示会だったと思います。 ・ 出展者の中には、初めて針葉樹を使った作品づくりに挑戦した人もいましたが、これをきっかけに、来場していただいた方も作家も地元の山の木の活用に関心をもっていただければと思います。

13 次の世代につなげる

- ・森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会づくりに向けて、次の世代へ働きかけを行う
- ・森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりに取り組む

取組事例

54

みえ森林教育アドバイザー派遣

～ 専門家と一緒に考える、森林をフィールドとした保育活動 ～

社会福祉法人 微笑会 きしだこども園



2回目：保育士を対象とした勉強会の様子

実施時期	令和5年10月～令和6年1月
実施場所	きしだこども園及び周辺山林
時間	1回目：3時間30分 2回目：3時間 3回目：4時間
対象・人数	保育士他園関係者6人
講師	嘉成永慈氏
備考	県事業

めざす姿	13 次の世代につなげる 01 遊び・楽しむ 02 親しむ 03 興味・関心を持つ 04 違いに気づく、 05 変化に気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす、 12 仲間と活動する)
ねらい	森林を活用した保育活動への保育士の理解を深め、実施に向けた課題解決に取り組む
内容	1回目・自然保育の候補地を視察し、保育を行うフィールドとして課題となる要素を確認する ・園から自然保育に取り組もうとする経緯や課題について聞き取る ・2回目以降の進め方を調整する 2回目・自然保育に対する保育士の不安や疑問を解消するため、保育士を対象として勉強会を実施し、自然保育への理解を深める 3回目・5歳児を対象に専門家の指導の下、自然保育を実践する（午前中） ・実践に対するふりかえりを行い、今後、自然保育を進めていくうえでの課題や展望を整理する



1回目：自然保育の候補地の視察の様子



3回目：自然保育の実践の様子

取組の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を実施することで、保育士と園の間で自然保育に対する共通認識が持てた。 ・ケガ等の事故が発生した際の対処法が明確になり、緊急連絡網や対応マニュアルの整備を進めることになった。 ・自然保育を取り入れるため、園の保育計画を見直すこととなった。
保育士の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森林教育のすばらしさをあらためて実感した。 ・児童の行動にあまり干渉せず、子供たちの自主性に任せられるようにする。 ・今後は森での自然保育の時間を少しずつでも増やしていきたい。

13 次の世代につなげる

取組事例

55

森のせんせい養成講座

～ NEALリーダー（自然体験活動指導者）編 ～

三重県（みえ森づくりサポートセンター）



ワークで子どもたちの声を引き出している様子

実施時期	令和6年11月～12月
実施場所	1・2回目：松阪市森林公園 3・4回目：四日市市少年自然の家
時間	4日間（1泊2日×2回）
対象・人数	指導者として活動する意向のある人 7人（30代～70代）
講師	天理大学 准教授 蓬田高正氏 遊び心 岡野こころ氏 国立曾爾青少年自然の家 菱川裕輝氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる講座

めざす姿	13 次の世代につなげる 01 遊び・楽しむ 02 親しむ 03 興味・関心を持つ 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす、 12 仲間と活動する）
ねらい	森林をフィールドとした体験活動を推進するため、体験活動にかかる指導者（体験活動指導者）の資質と指導力の向上を図る
内容	<p>【1回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験保育活動の性質：地域の自然活用の特色や自然体験活動の意義と課題について学び、自然体験活動の意義を理解する ・青少年における体験活動：青少年における体験活動の意義を理解する ・自然体験活動の技術：木工体験（机づくり、箸づくり）をはじめとする様々な自然体験活動の体験と、基本的な技術、自然体験活動の構成について学び、理解する <p>【2回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の安全管理：自然体験活動における基本的な安全管理と応急処置について学ぶ ・自然体験活動の指導：自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解する ・対象者理解：対象者の特徴を理解する方法について学ぶ <p>【3回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の実践：ジュニアフォレスター育成講座参加者を対象に、木工体験（机づくり）やキャンプファイヤーの指導・支援を通し、その技術を身に付ける <p>【4回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の実践：ジュニアフォレスター育成講座参加者を対象に、木工体験（箸づくり）や野外炊事の指導・支援を通し、その技術を身に付ける ・4日間で学んだことをふりかえり、知識・技能の定着を図るとともに、今後の活動に向けた方針を考える

取組の内容

自然体験活動の意義についての講義の様子

1日目

体験活動の体験の様子



体験する

小刀を使う際の指導方法について学んでいる様子

知る



2日目

自然体験活動における事故の判例をもとに
対応策を考える演習の様子

考える



体験を通して対象者理解の難しさを学んでいる様子



体験する

体験をともにする子どもたちと自己紹介をしている様子



体験する

3日目

子どもたちと一緒にワークに取り組む様子



体験する

木工の補助をしている様子



体験する

4日目

小刀の使い方を指導している様子



体験する

焚き付けの指導をしている様子



体験する

考える

実践のふりかえりをしている様子



おしまい

参加者の
反応

- ・ 1・2回目の研修と、3・4回目の実践で、段階を経てより深い学び、実践につながったと思います。
- ・ 指導者の方に教えていただき、自分がリーダーになった後のビジョンが想像しやすかったです。
- ・ 1回目は講師の方々から机上や実践等を交えながら、自然体験活動について教えていただき、まだまだ自分の中に落とし込めてないところもあるなど振り返っていたのですが、2回目は実際に子どもたちと共に過ごしながら、子どもたちの姿から学ぶことができ、生の体験の中で、自然体験活動とはこういうことか！この学びを深めるためのリーダーのあり方って？など、私自身の中でたくさん考え、学ぶ機会をいただくことができました。
- ・ 「きこりになりたい」という子どもの言葉はうれしかったです。小学生向けに林業の話ができたらと思いました。
- ・ 自分がリーダーになったら、対象者を案内することが大切だということを学ばせていただきました。自身の活動の中でもイベントを定期的に開催したいと思います。

13 次の世代につなげる

取組事例

56

森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む 指導者養成講座

三重県林業研究所



子どもにノコギリの使い方を指導している様子

実施時期	令和5年11月～令和6年1月
実施場所	1回目：速水林業所有の森林及び研修所 2・3回目：三重県林業研究所 4・5回目：国立曽爾青少年自然の家 6・7回目：三重県立熊野少年自然の家
時間	7日間（1泊2日×2回、1日×3回）
対象・人数	指導者として活動する意向のある人 10人（20代～60代）
講師	速水林業 代表 速水 亨氏 天理大学 准教授 蓬田高正氏 国立曽爾青少年自然の家 所長 藤井 玄氏、菱川裕輝氏 遊び心 岡野こころ氏
備考	県主催講座

めざす姿	13 次の世代につなげる 01 遊び・楽しむ 02 親しむ 03 興味・関心を持つ 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす、 12 仲間と活動する)
ねらい	森林をフィールドとした体験活動を推進するため、体験活動にかかる指導者（体験活動指導者）の資質と指導力の向上を図る
内容	【1回目】 フィールド（森林）についての理解 [持続可能な森林利用] 【2回目】 子どもの生きる力を育みむ自然体験活動 ～指導者としての心構え～ 【3回目】 対象者を理解する ～発達段階をふまえた子どもとの関わり方～ 【4回目】 そに森の子キャンプ（国立曽爾青少年自然の家主催）の視察 【5回目】 自然体験活動における安全管理 【6回目】 活動実践① 【7回目】 活動実践②



朝のオリエンテーションの様子



実践のふりかえりをしている様子

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> • 実際の子供たちの姿を見れたし、動き、感情、モチベーション、得意不得意など、しっかりと関わることができた。 • 室内での講義ではこういったことは分からないことだった。実践が大切だと感じました。 • コーチ陣の具体的で実用的なアドバイスや手厚い支援のおかげで、リーダーとして活動するために必要なこと、大事にしなければいけないことがとてもよく理解できました。そして、青少年教育や社会教育の重要性を改めて実感することができました何よりも本当に楽しかったです。
--------	---

13 次の世代につなげる

取組事例

57

里山保全基礎講座

～ 里山保全活動④安全な間伐・除伐の作業と道具の使い方を身につける ～

三重森林インストラクター会



ロープを使った伐倒の指導の様子

実施時期	令和6年12月
実施場所	深谷公園（鈴鹿市）
時間	3時間
対象・人数	第4回 鈴鹿市民8人
講師	三重森林インストラクター会5人
備考	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（鈴鹿市）

めざす姿	13 次の世代につなげる03 興味・関心を持つ04 違いに気づく06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目をむける、10 課題解決への参画、11 行動を起こす、12 仲間と活動する)
ねらい	自ら安全に里山保全活動を実践することができるリーダーを育成する
内容	1回の座学と4回のフィールドワークの全5回講座のうち、第4回目のプログラム ・前回の講座で学んだことのふりかえりと、今回の講座の目的について共通認識をもつ ・除伐・間伐体験を通して、伐倒の手順と安全管理について学ぶ ・作業で使用する道具（ノコギリ）の使い方と管理（手入れ）について学ぶ



伐倒作業の注意点などを確認している様子



除伐作業の指導の様子

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな危険があることが分かった。 ・ 重みを利用してノコギリの入れ方を変えたり、竹と雑木の切り方が分かった。 ・ 道具の手入れの仕方を教えていただいてよかった。 ・ 新しいことが学べて楽しかった。 ・ しっかりサポートしてもらえるので安心してできた。
--------	---

1 学習指導要領における学習内容と掲載事例一覧

区分	学年	教科	学習内容	取組事例番号	
				メインとする事例	関連する事例
未就学児	—	—	感じる		02,03
			不思議さ	03	
			触れる	01	02,03,04,05,06,07,08,09,32
			遊ぶ		01,02,03,05,32
			つくる	02	03,05
			命の尊さ		01
小学生	1～2	生活	四季の変化	10	49
			面白さ・不思議さ	04,05	01,02,03,06,07,08,09,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,37,38
			遊び		02,04,06,07,08,09,49
			観察		02,04,06,07,08,09,10,24,49
			育てる		10,49
	1～3	図画工作	創作遊び		03,05,08,22,25,26,28
	1～4	道徳	楽しむ		02,03,04,05,06,07,08,09,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,37,38,42,43
	3	社会科	地域の生産活動		34,35,36,37
			身の回りの生物		06,07,08,09,10,12,15,23,24,29,30,49
		理科	植物の体のつくり（根・茎・葉）		06,07,08,09,10,11,12,15,22,23,24,29,30,31,32,42,43,49
			比較する	06,07,08,12	04,09,10,11,32,33,34,35,36,37,38,39,40
	4	社会科	自然環境と地場産業		13,17,26,27,28,33,34,35,36,37,38,39,40
			飲料水と森林保全	11	13,14,15,16,17,20,21,33,34,35,36,37,38
		理科	水の循環		11,13,14,16,17,18,20,21,33,34,35,36,37,38
	5	社会科	森林資源のはたらき	14,18,19,30,34,35,36,37	11,13,15,16,17,20,21,22,23,24,25,26,27,28,29,31,32,33,38,39,42,43,49
			森林と人々の暮らし	15,22,25,27,28,29	05,11,12,13,14,16,17,18,19,20,21,23,24,26,30,31,32,33,34,35,36,37,38,39,41,42
			森林を保全する仕事（林業）	13,17,20,21,26,32,39	11,14,15,16,18,33,34,35,36,37,38,42,43
森林資源と木材生産			16,24,38	14,18,19,20,21,22,25,26,27,28,29,30,31,39,43	
木材需要と木材輸入				32,42	
自然災害と森林整備			33	11,22,23,32,34,35,36,37,38,39,42	
理科		水の作用（土砂運搬）		11,13,14,15,16,17,18,19,20,21,33,34,35,36,37,38,39	
		植物の発芽・成長・結実		29,42,49	

1 学習指導要領における学習内容別掲載事例一覧

区分	学年	教科	学習内容	取組事例番号	
				メインとする事例	関連する事例
小学生	6	社会科	地球規模の課題	41	
			地球温暖化		41
			日本の役割		41
		理科	植物における酸素と二酸化炭素の出入り		41,43
			食物連鎖		11,29,42,43,49
	4～6	図画工作	創作活動	09,31	11,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,25,26,28,29,30,32,42,43
	5～6	技術・家庭	資源の持続的な利活用		41,42,43
			消費生活と環境		42,43
	5～6	道徳	自然の偉大さ		11,12,31,34,35,36,37,39,42,43,49
			命のつながり		31,49
	1～6	総合的な学習の時間	探究的な学習	42,43	
			地域の自然環境と人々の暮らし	23	10,11,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,24,25,26,28,32,33,34,35,36,37,38,39
			自然体験		04,06,07,08,09,42,43,49
			ボランティア活動		49
1～6	特別活動	自然や文化に親しむ		04,06,07,08,09,10,49	
		社会奉仕	49		
		勤労の尊さ		11	
		生産の喜び		11	
中学生	1～3	社会科	森林資源・木材生産	40	44,45
			森林資源と環境		40,41,44,45
			国際社会の中の日本		44,45
		理科	二酸化炭素排出量の変化		41,44
			光合成		41,44
			多様性と進化		49
			共通点と相違点		30,44,45
		技術・家庭	加工技術		40,42,43,45
			持続可能な社会の構築		29,40,44,45
			消費者の権利と責任		40
		道徳	自然を大切にすることの意義		29,30,44,49
		総合的な学習の時間	探究的な学習	44,45	
			自然体験		44
			職場体験		40,44,45
		特別活動	社会生活と職業生活の接続		40
			社会貢献		44
			職業観		45

1 学習指導要領における学習内容別掲載事例一覧

区分	学年	教科	学習内容	取組事例番号	
				メインとする事例	関連する事例
高校生	1～3	社会科	生活文化と森林環境		46,49,50
			資源とエネルギー問題		46
			持続可能な社会の実現		45,46
		理科	生態系と人間生活		46,49
			多様性（生物・生態系）		49
			生態系バランスと人為的攪乱		49
			資源の再利用		49,50
		技術・家庭	持続可能な社会への参画		46,50
			持続可能なライフスタイル		46
		総合的な学習の時間	ものづくり・生産活動		46,50
			ボランティア活動		50
		特別活動	社会的・就業的自立		46
			就業体験活動	46	
			社会貢献	50	

2 取組事例の活用（解説）

この取組事例が、P.2の「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿」のうち、メインとしているカテゴリを太文字で示すとともに、関連しているカテゴリを小文字で示しています。

取組事例の内容が、P.2の「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）」のうち、どのカテゴリをメインに目指した取組にあてはまるものを示しています。

取組の実施主体

参加者の年代

めざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）

01 遊び・楽しむ

・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

取組事例
01

2歳児 森へLet's go

～ 自然保育につなげるための未就学児園庭整備 ～

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 石榑保育園 2歳児



森の中を散策している様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	園庭及び近隣の森林
時間	2時間30分
対象・人数	2歳児 15人
講師	森のせんせい1人（才賀美奈氏） いなべ市集落支援員1人
備考	園独自取組

この取組の事業名や財源を示しています。

どのような体験や学びを行った取組なのかを示しています。

めざす姿	01遊び・楽しむ（02親しむ、03興味・関心を持つ）
ねらい	季節を感じ、自然の環境で遊ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> 秋の森を探索する 木の実や落ち葉拾いを楽しんだり、落ちている棒で遊ぶ 森の中での体験をふりかえり、お話をする
学習指導要領との関連	<p>触れる・遊ぶ（幼児）</p> <p>命の尊さ（幼児）、面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）</p>

取組のねらいを示しています。

この取組事例の内容が、学校指導要領のどの単元に関連するのかを示しています。

メインとなる単元を太文字で、関連する単元を小文字で示しています。



木の実拾いを楽しんでいる様子



森の中を散策している様子

この取組に関係した方々の感想やご意見などを記載しています。

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 森に入った瞬間、足元がふかふかして何かがいると感じる子、視線を低くし虫さがし、棒を見つけて遊ぶ姿、木の実、草の実を採集する姿、今まで経験した事と森の中の現状の物をつないでお話をする子などそれぞれが森を満喫していました。
保護者のコメント	<p>※ 森での森林教育実施後に、保護者による園庭緑化の取組に発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 何もなかった園庭に草花が芽生え虫が集まるようになり、子どもたちが夢中になって遊べる魅力的な環境となりました。大人だと見過ごしそうな物でも、子どもたちは立ち止まって発見し、喜ぶ姿が見られるようになりました。特に、砂場ハウスに植えられた草花を見つけた子どもたちは、見るだけでなく摘んで遊ぶことで、より遊びの幅が広がりました。このように園庭内でも身近な自然に触れることで、園外のフィールドに出ても自然の面白さに気付ける子に成長して欲しいと願っています。

3 用語の定義

① みえ森林教育ビジョン

令和2年10月に県が策定した、県における森林教育の基本的な考え方であり、県として推進しようとする森林教育の目的及び目標とする社会と人物像を示したもの
(森林教育の目的)

- ・人々が森林や木、木材に親しみをもち、私たちの暮らしや経済の中に、当たり前
に木材が使われるとともに、森林空間を活用した活動やビジネスが広く求められ
る社会づくり
- ・林業・木材産業やビジネスを展開できる人材を一人でも多く生み出す

(目標とする社会・人物像)

- ・森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会
- ・森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人

② みえ森林教育

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会を作っていくために、子どもから大人まで、三重県で暮らす誰もが、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す教育活動

③ みえ森林教育プログラム

県がみえ森林教育ビジョンを実現するために推進する、みえ森林教育の一連の取組

④ 森林教育プログラム

森林教育を推進するために実施される教育の指導計画・取組内容

⑤ 森林教育の取組

森林教育を推進するために実施される活動や支援策及び事業

⑥ 森林教育コーディネート

森林教育に取り組みたい学校等に、森林教育指導者の紹介や、森林教育の企画・提案を行う取組

⑦ 森林教育企画書

森林教育プログラム実施にあたり、関係者間で必要な事項を共有するために作成するもの

4 みえ森づくりサポートセンターの活用

三重県では、「みえ森と緑の県民税」を活用して、平成28年4月から、森林教育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、指導者の育成や紹介、出前授業や活動事例集の発行、森林教育のコーディネートなどを通じた森林教育の推進に取り組んでいます。

ぜひ、みえ森づくりサポートセンターをご活用ください。



みえ森づくり サポートセンター

(運営受託者) 公益社団法人三重県緑化推進協会

〒515-2602 津市白山町二本木3769-1

(三重県林業研究所内)

TEL : 059-261-1223 FAX : 059-261-4153

E-mail : miemori@zc.ztv.ne.jp

WEB : <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc/>

森林教育のサポート

学校や幼稚園、保育所、学童保育などで取り組まれる森林教育の活動にかかるサポートを行っています。



- 主なサポート内容
 - ・「出前授業」の実施
 - ・指導者「森のせんせい」の紹介
 - ・森林教育を行うにあたっての相談対応
 - ・森林教育活動の企画、運営支援

出前授業

これから森林教育を始めてみたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。年度初めに募集があります。はじめの一步にご活用ください。



指導者の育成

各種講座を通じて、森林教育の指導者の養成や「森のせんせい」登録者のスキルアップを図っています。



- 主なサポート内容
 - ・「みえ森林教育講座」の開催
 - ・「森のせんせい養成講座」の開催
 - ・「学校教職員森林環境教育研修」の開催

物品や資機材の貸出し

森林教育に活用できる道具・遊具などの貸出しを行っています。

- 貸出し物品の一例
 - ・もりぼーるをはじめとする木製遊具
 - ・ヘルメット、チャップスなど安全装備
 - ・のこぎり、バーニングペンなどの木工用具



森づくりのつながり

「森のせんせい」や「森づくり活動団体」のネットワーク構築や、関係団体との連携を図っています。

イベントの開催

広く森林教育の取組を伝えるための場として、また、指導者の実践の場として、各種イベントを開催しています。

- イベント一例
 - ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
 - ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催

5 みえ森と緑の県民税の活用



みえ森と緑の県民税



三重県では、災害に強い森林づくりを進めるため、山崩れや洪水などの災害発生のリスクを軽減する取組を進めると同時に、そのような森林づくりを県民全体で支える社会づくりを進めるため、平成26年度年から「みえ森と緑の県民税」を導入しています。

「みえ森と緑の県民税」を活用して、2つの基本方針に基づき、5つの対策を行っています。

基本方針1 災害に強い森林づくり		基本方針2 県民全体で森林を支える社会づくり		
対策1	対策2	対策3	対策4	対策5
土砂や流木による被害を出さない森林づくり	暮らしに身近な森林づくり	森を育む人づくり	森と人をつなぐ学びの場づくり	地域の身近な水や緑の環境づくり



みえ森と緑の県民税を活用したみえ森林教育



市町が地域の実情に応じて創意工夫して森林づくりの施策を展開することができるよう、市町に「みえ森と緑の県民税市町交付金」が交付されています。

森林教育活動の財源として、「みえ森と緑の県民税市町交付金」をご活用ください。



※6 森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林教育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。

情報の一部は、みえ森づくりサポートセンターのホームページでご確認いただけます。

※7 出前授業

これから森林教育を始めようとする学校等や、市町交付金事業の対象とならない学校に、要望に応じてみえ森づくりサポートセンターが森林教育の出前授業を行います（年間10校程度を選定・実施。ただし、過去に出前事業を行った学校は対象外になります。）





発行 三重県農林水産部
 監修 京都教育大学
 名誉教授 山下宏文氏
 発行年月 令和7年2月

問合せ先
 三重県林業研究所普及・森林教育課
 〒515-2602 津市白山町二本木3769-1
 TEL 059-262-5352 FAX 059-262-0960
 Email miefa2@pref.mie.lg.jp



この印刷物は、FSC®認証紙を使用し、植物性100%の「植物インキ」で印刷しています。



このみえ森林教育プログラムは、「みえ森と緑の県民税」を活用して制作しました。